

3. 河川整備の実施に関する事項

高潮区間においては、伊勢湾台風級の来襲による異常高潮に対して浸水被害から守るため高潮対策事業を実施するとともに、太田川下流ブロック全域において、平成11年6月洪水相当のはん濫に対し家屋浸水被害から守ると共に、市街地については、概ね30年に1回発生すると予測される洪水に対して家屋浸水被害から守るため、学識経験者および住民の意見を反映した護岸整備、川幅の拡幅、河床掘削などの河川改修を実施していきます。

また、地域開発、道路・環境整備等、全体のバランスを考えながら総合的な整備を進め、住民が親しめる環境整備や親水施設の整備も行っています。

河川整備期間が概ね30年と長いため、必要に応じ工事の進捗状況について確認を行います。

工事中貴重な動植物が確認された場合には、学識経験者の意見を踏まえながら移動、移植等を行い種の保全に努めます。

高潮対策：京橋川，猿猴川，府中大川，御幸川

河川改修：府中大川，榎川，安川，御幸川，根谷川，山倉川，大毛寺川，鈴張川，吉山川

内水対策：新安川，矢口川

河川工事の施行区間を表-3.1.1に示します。

表-3.1.1 河川工事の施行区間

河川名	位置	区間延長(m)
京橋川	左岸：最下流から神田橋下流 5,400mの区間 右岸：最下流から神田橋下流 5,100mの区間	高潮対策:左岸 5,400 高潮対策:右岸 5,100
猿猴川	左岸：東洋大橋付近から駅西高架橋下流 5,500mの区間 右岸：最下流から駅西高架橋下流 6,200mの区間	高潮対策:左岸 5,500 高潮対策:右岸 5,800
府中大川	高潮対策：北橋から府中大橋下流 1,200mの区間 河川改修：新鶴江橋から第二神前橋下流 750mの区間	高潮対策:1,200 河川改修: 750
榎川	最下流から新宮橋下流 1,400mの区間	河川改修:1,400
安川	安川新橋から大原上橋下流 7,900mの区間	河川改修:7,900
御幸川	J R 鉄橋付近から市道九号橋下流 490mの区間	高潮対策:防潮水門， 排水ポンプ場 河川改修:490(改修済)
根谷川	南原川合流点から有楽橋下流 1,930mの区間	河川改修:1,930
山倉川	根谷川合流点から南浦橋下流 940mの区間	河川改修:940
大毛寺川	光西寺橋から橋本橋下流 4,870mの区間	河川改修:4,870(改修済)
鈴張川	最高寺橋から新猪子橋下流 2,220mの区間	河川改修:2,220
吉山川	脇田橋から免出橋下流 4,600mの区間	河川改修:4,600(改修済)
新安川	最下流部	内水対策:排水ポンプ増設
矢口川	最下流部	内水対策

太田川下流ブロックにおける河川工事の施行場所を次に示します。

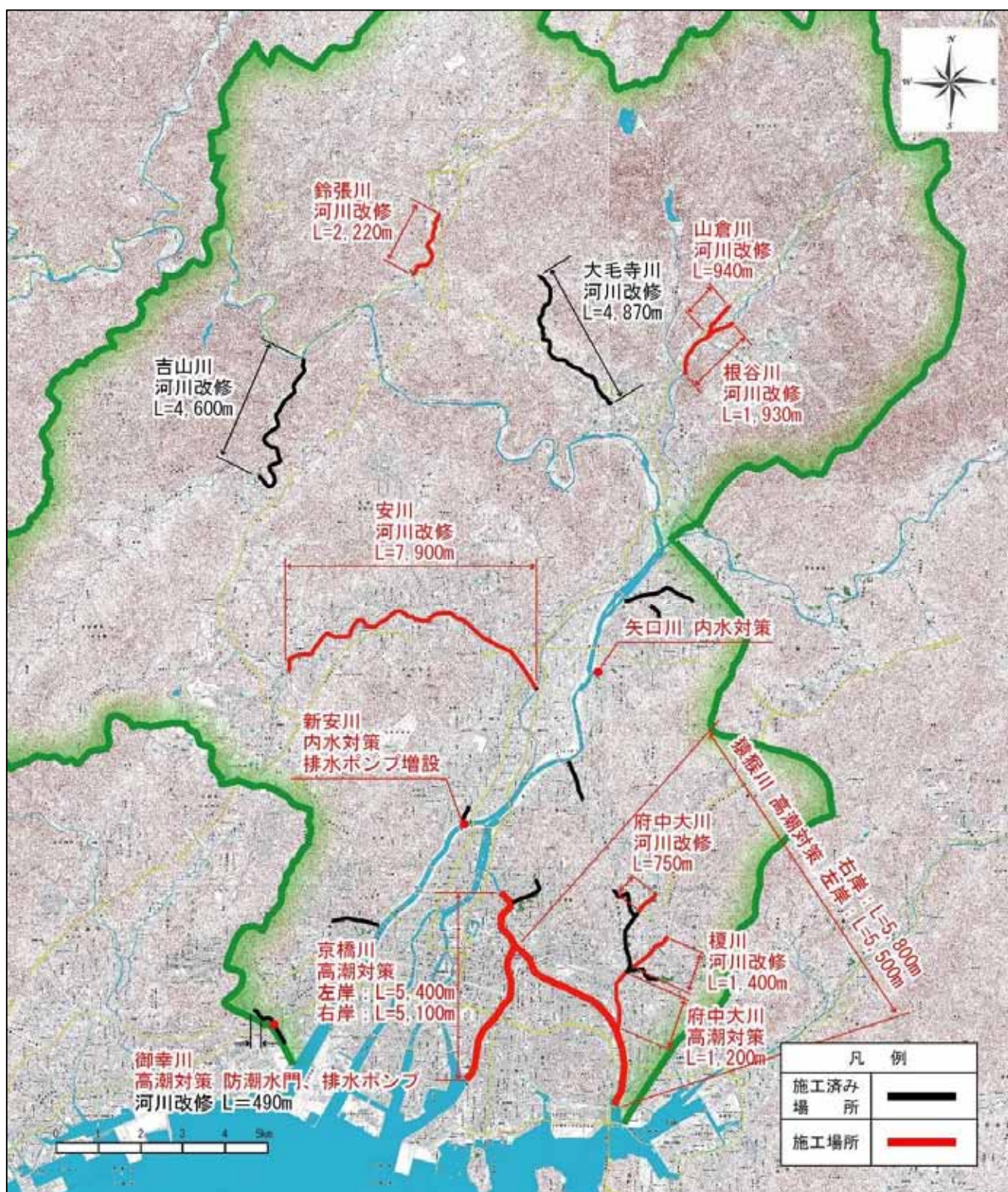


図-3.1.1 施行位置図

3.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに

当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

(1) 高潮対策

京橋川・猿猴川・府中大川・御幸川

広島市に伊勢湾台風級の台風が来襲しても安全に対処し得るように、京橋川、猿猴川、府中大川、御幸川の整備を行います。

広島市は都市の発生発展上からも又地形上からも高潮の被害を受けやすく、資産や都市機能の集積度が高いため、高潮堤を建設し、高潮の被害から防護します。

堤防上は遊歩道として利用し、非常時においては消防活動用に利用できる斜路の整備を行います。

流量配分図、平面図及び横断面図を図-3.1.2(1)～(8)に示します。

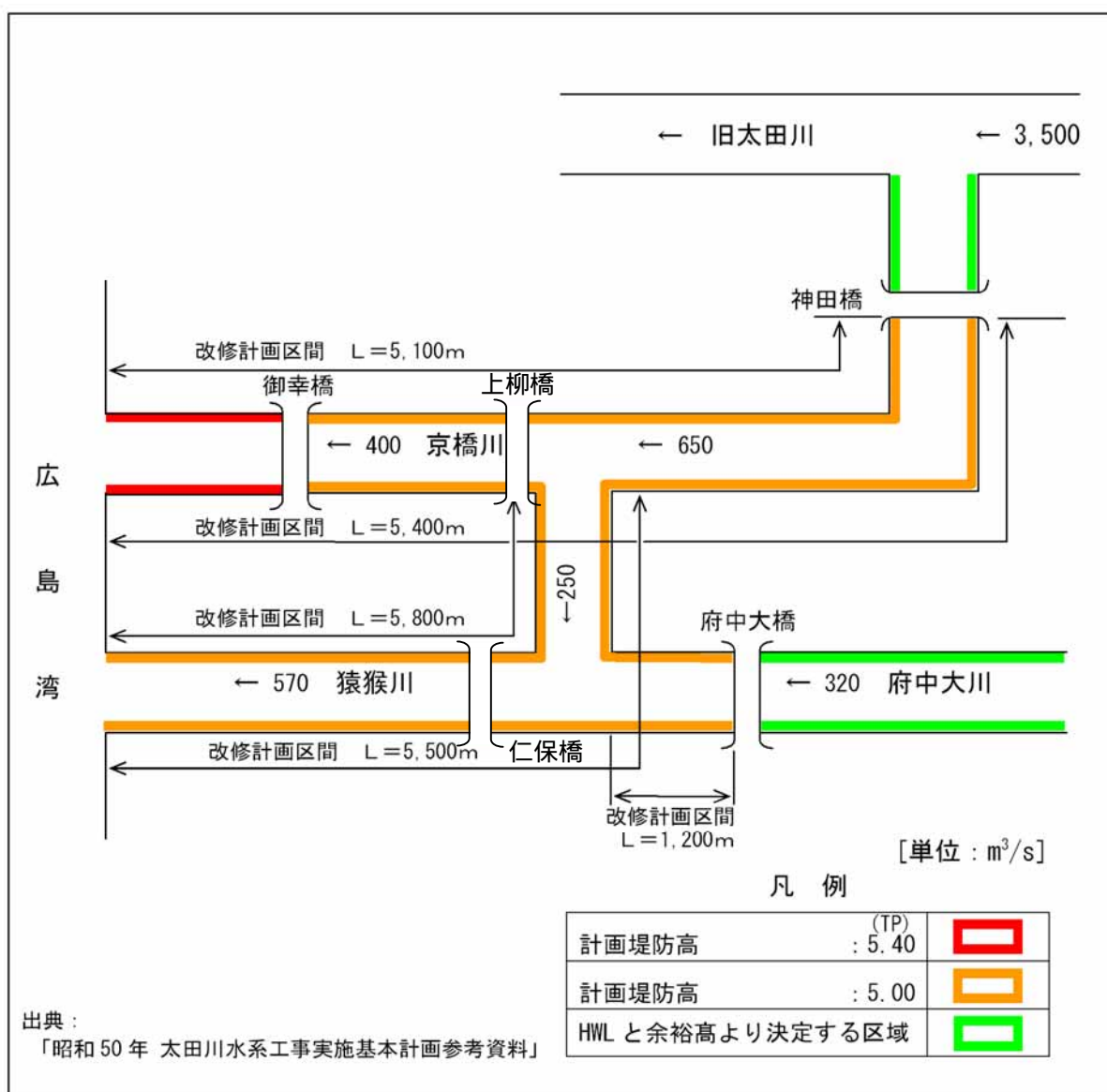


図-3.1.2(1) 流量配分図 (京橋川・猿猴川・府中大川)

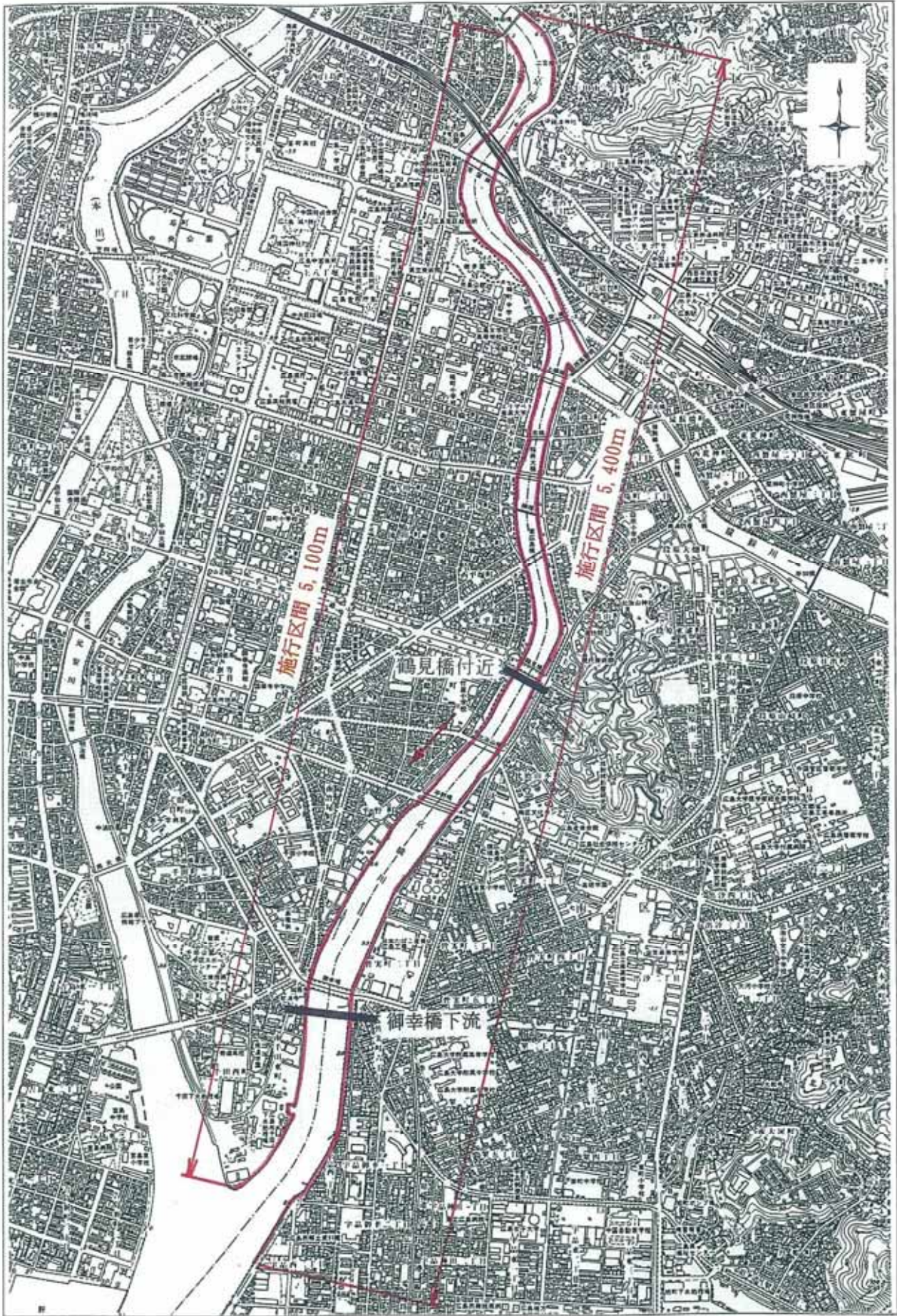
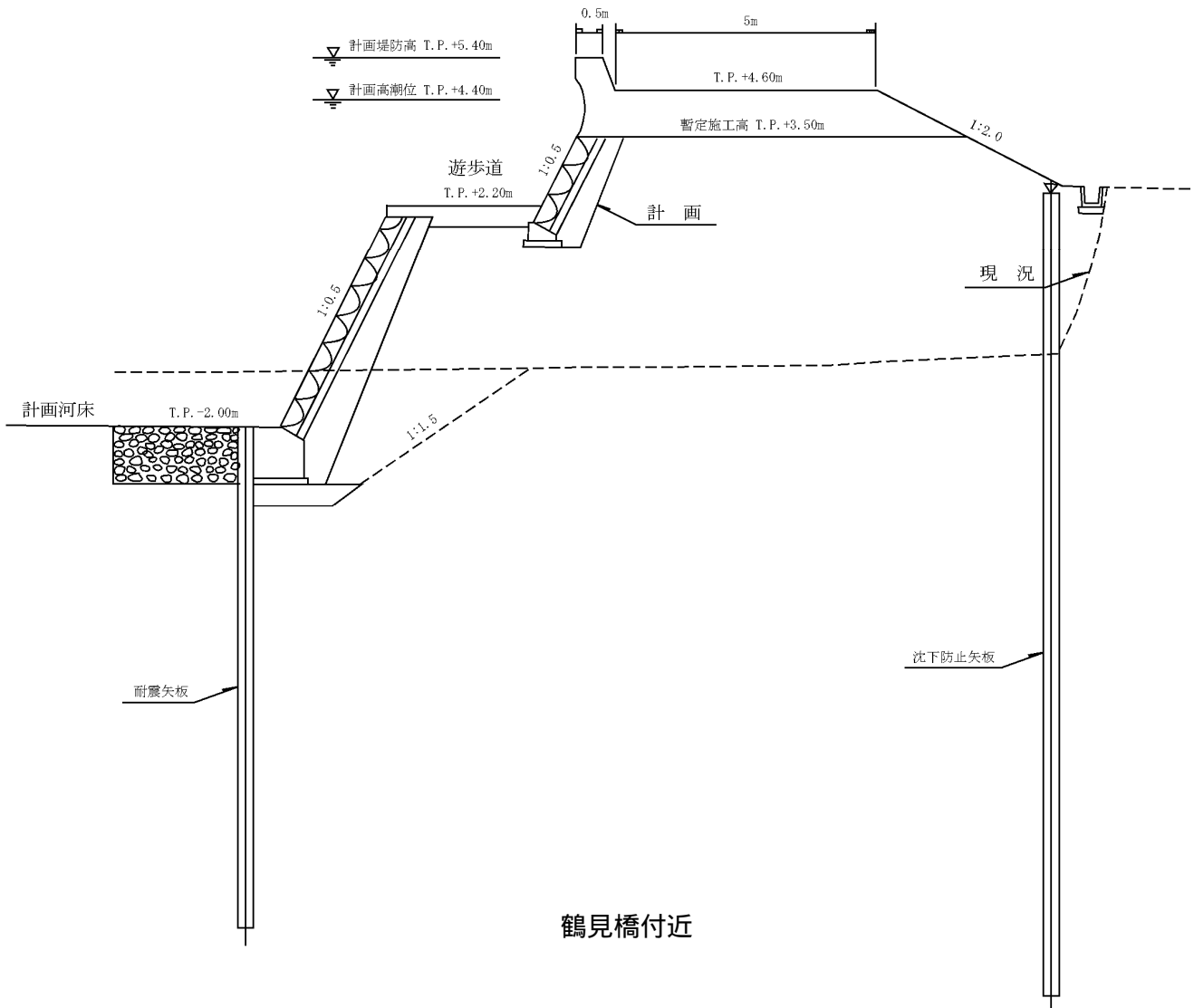
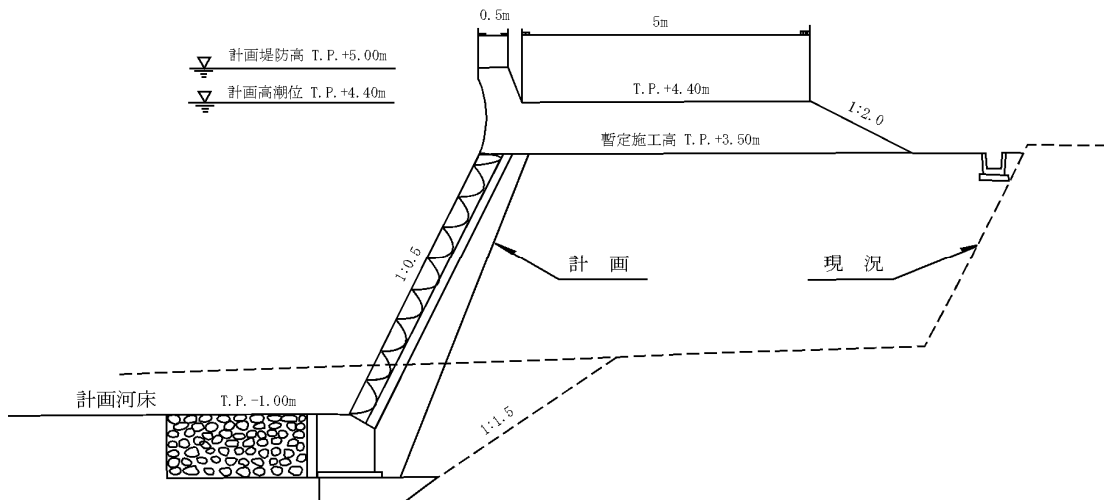


図-3.1.2(2) 平面図(京橋川)(S=1:20,000)

御幸橋下流



鶴見橋付近



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合があります。

図-3.1.2(3) 横断面図(京橋川)

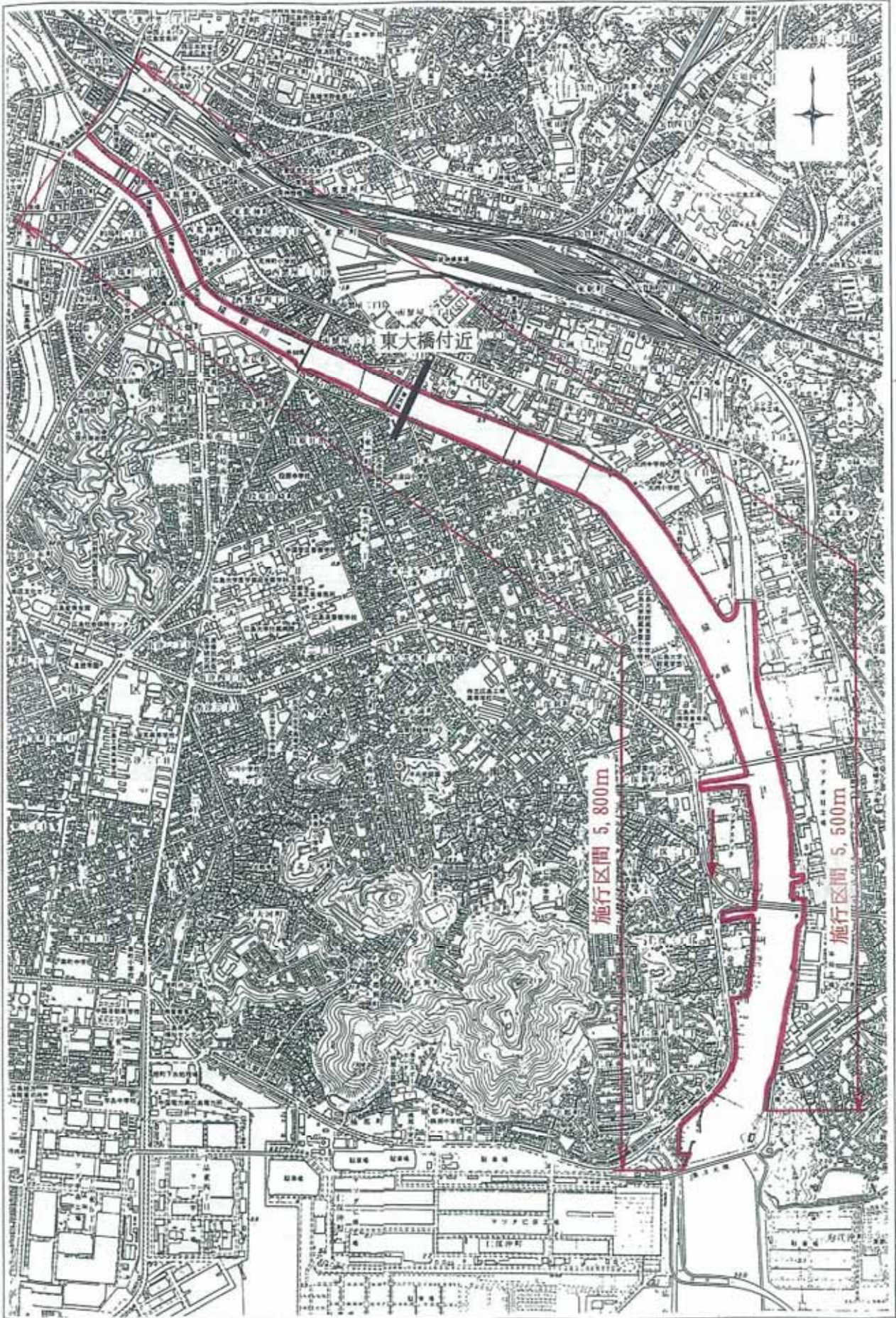
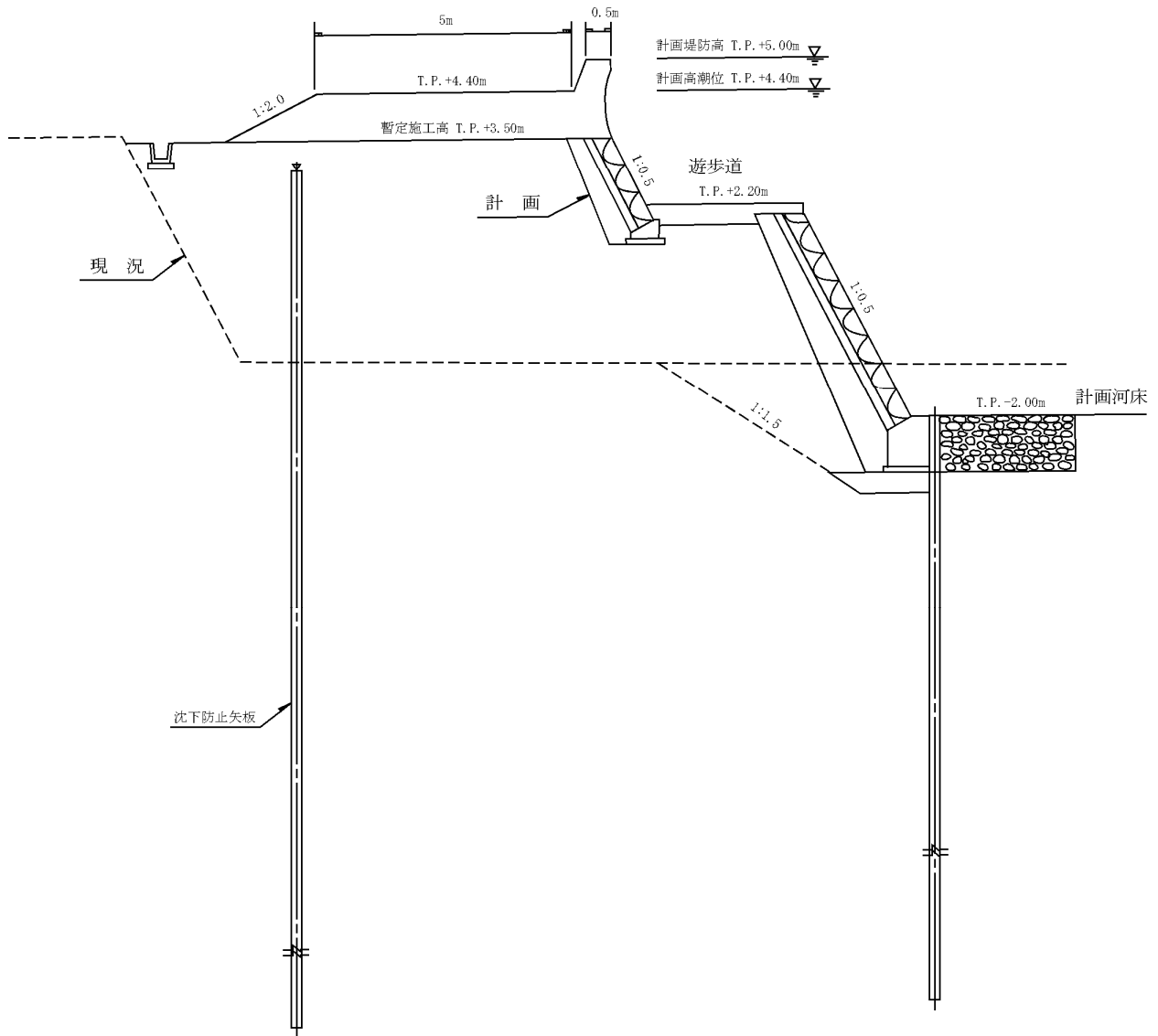


図-3.1.2(4) 平面図(猿猴川)(S=1:20,000)

東大橋付近



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合があります。

図-3.1.2(5) 横断面図 (猿猴川)

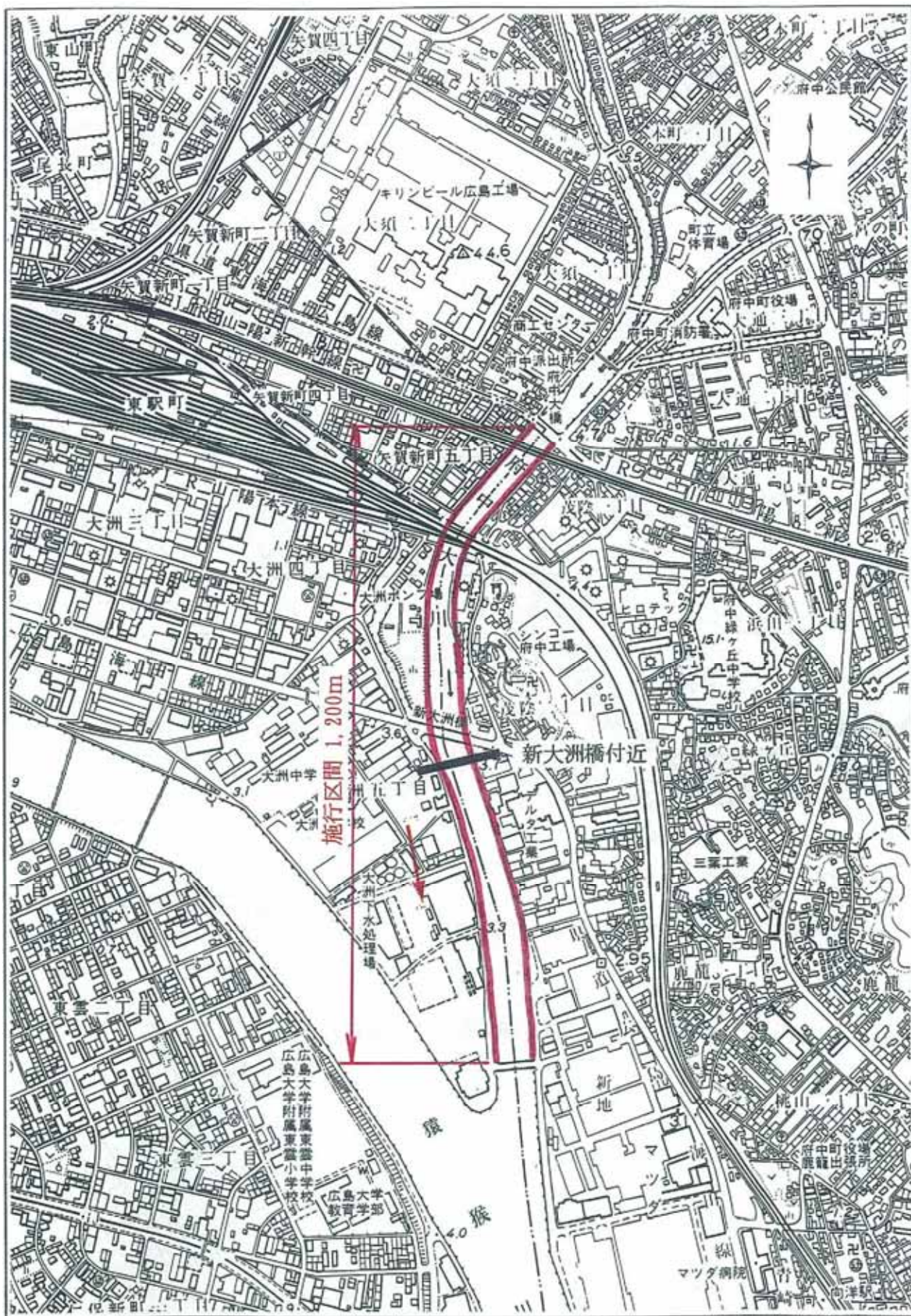
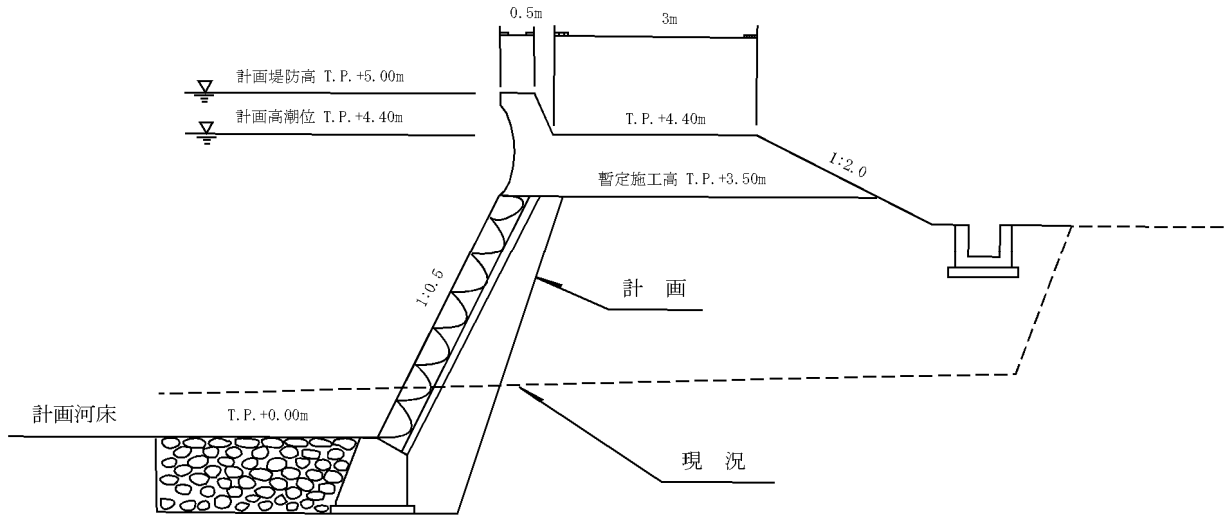


図-3.1.2(6) 平面図(府中大川) (S=1:10,000)

新大洲橋付近



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合があります。

図-3.1.2(7) 横断面図(府中大川)

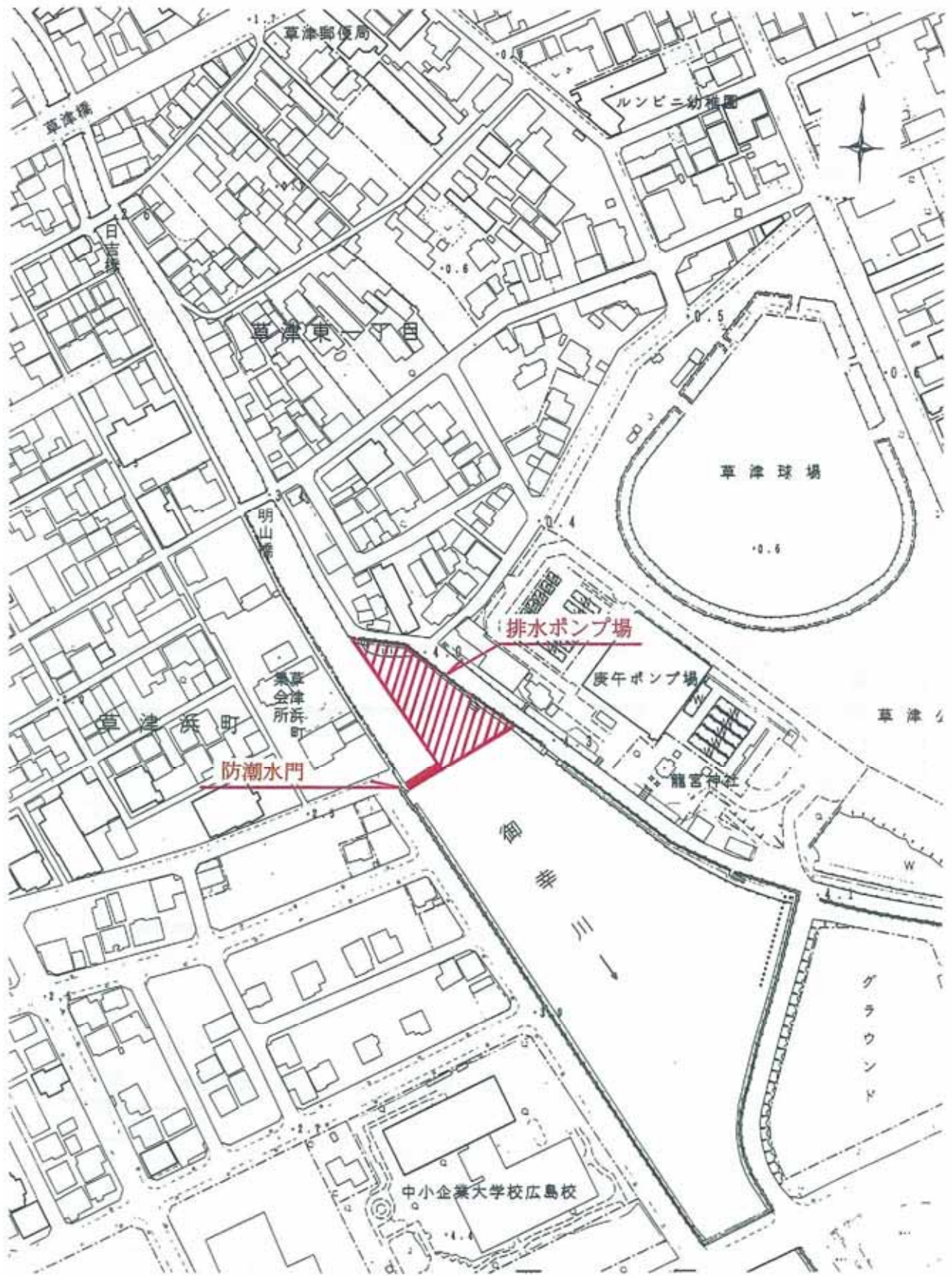


図-3.1.2(8) 平面図(御幸川) (S=1:2,500)

(2) 河川改修

府中大川・榎川

a . 府中大川

府中大川下流地点において目標の計画高水流量 $320\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させる河道断面を確保します。

府中大川沿川の護岸法勾配はすでに完成している下流と同様としますが、^{かないかり}金碓橋 ~ ^{みょうじん}明神橋区間では左岸側の護岸は親水機能を持たせた緩勾配の環境護岸とし、人が水辺に近づき易いように工夫するなど、潤いとふれあいのある水辺空間の整備を図ります。

護岸のブロックは環境に配慮した構造の環境保全型ブロックを使用します。

流量配分図、平面図及び横断面図を図-3.1.3(1) ~ (3)に示します。

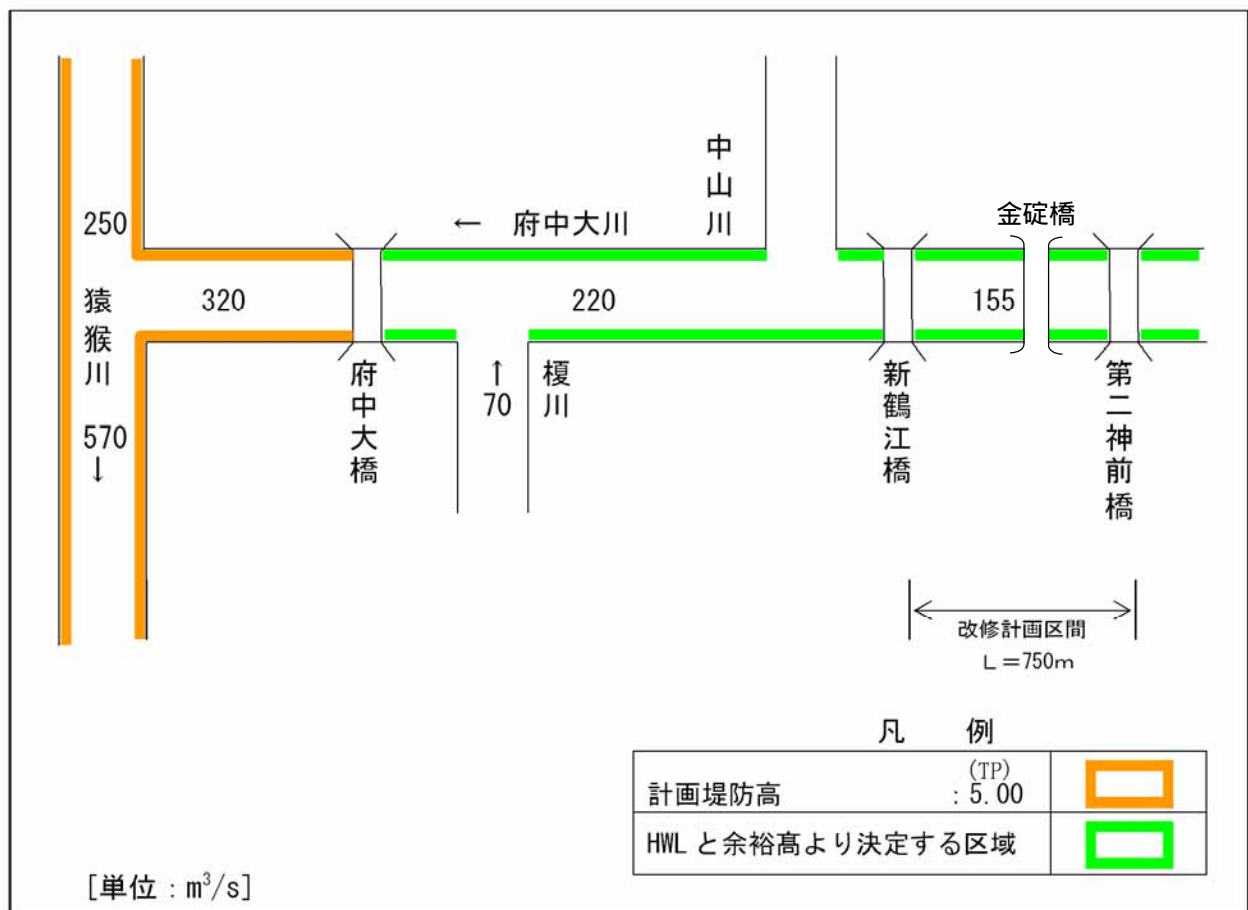


図-3.1.3(1) 流量配分図 (府中大川)

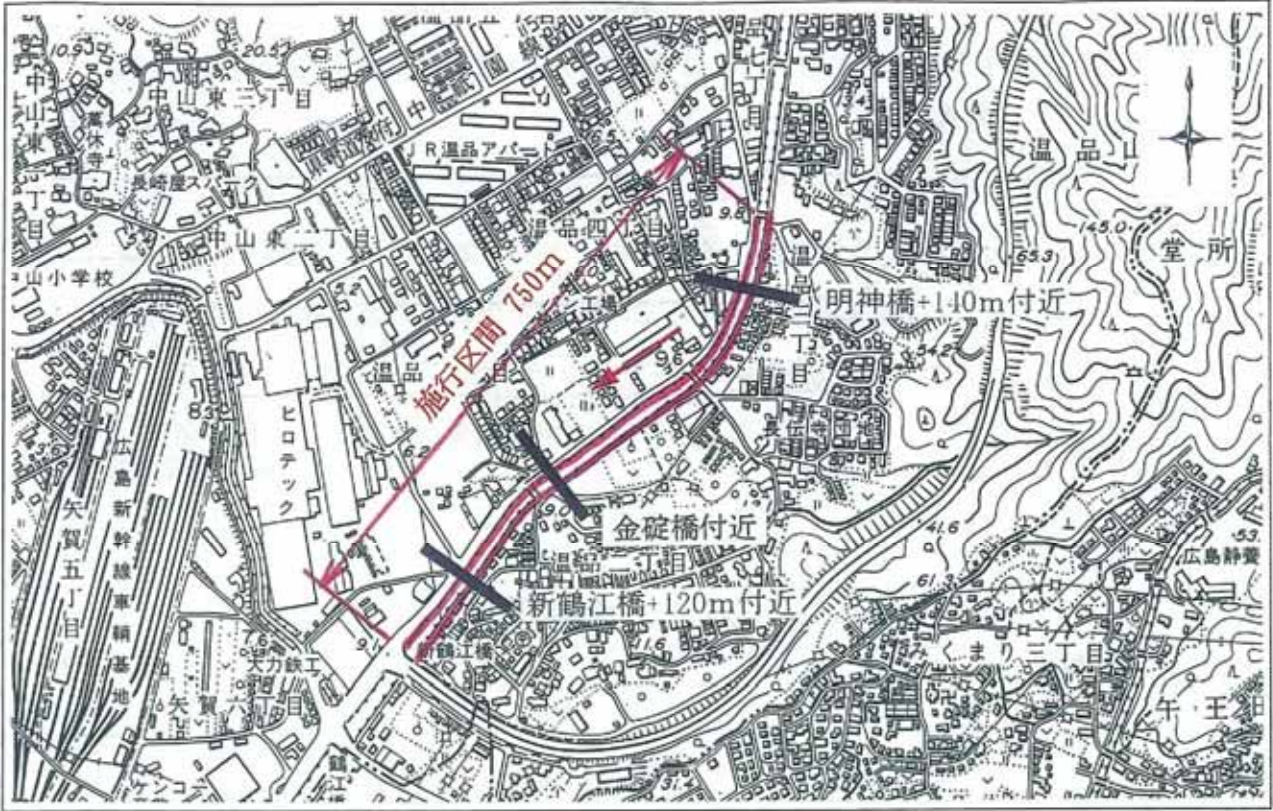
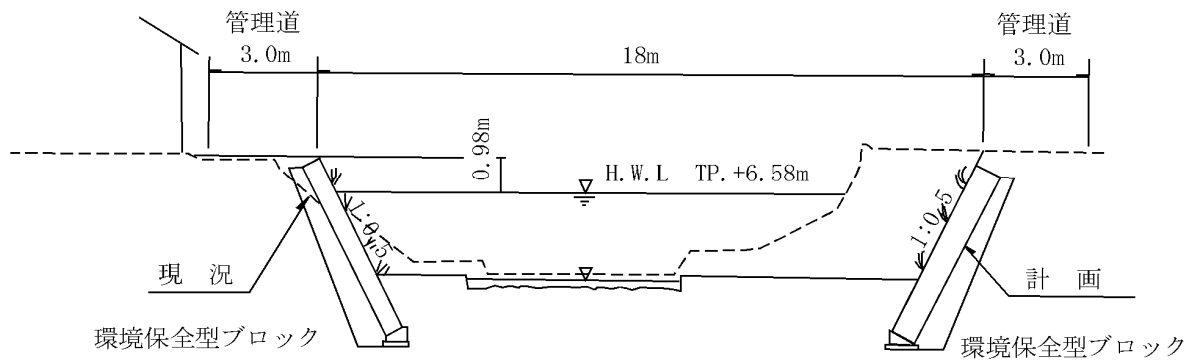
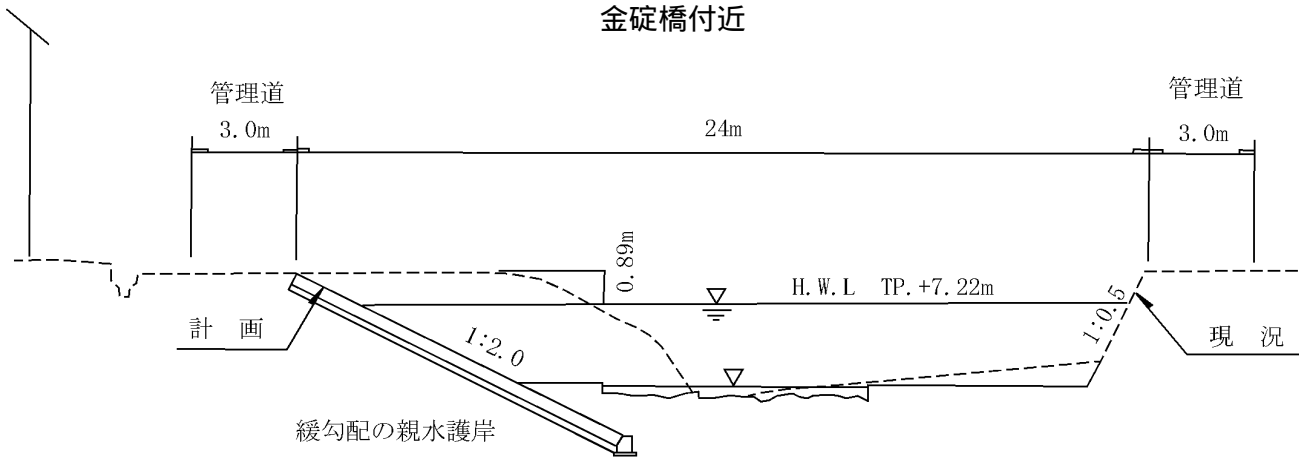


図-3.1.3(2) 平面図(府中大川)(S=1:10,000)

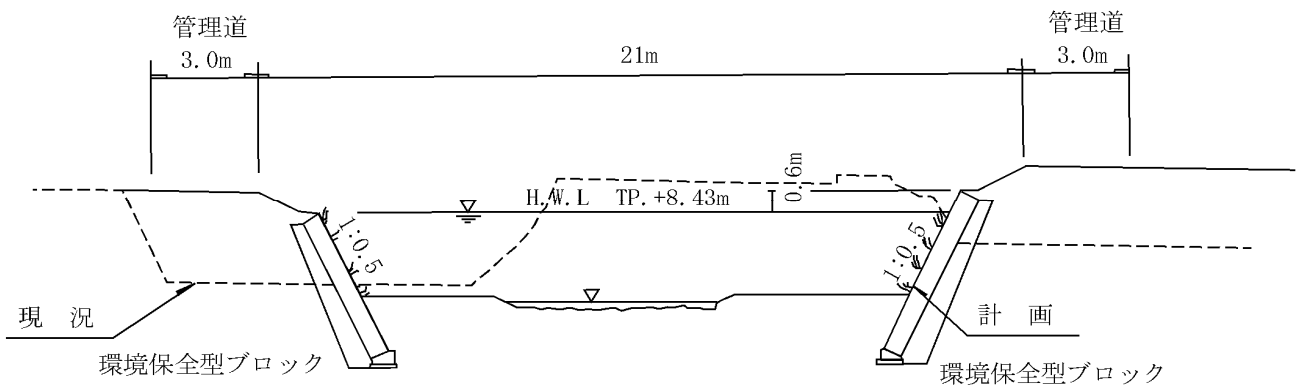
新鶴江橋 + 120m 付近



金碓橋付近



明神橋 + 140m 付近



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。
みおすじ
 淺筋の水位は平水流量相当時の水位です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合があります。

図-3.1.3(3) 横断面図 (府中大川)

b. 榎川

榎川下流地点において目標の計画高水流量 $70\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させる河道断面を確保します。

榎川沿川は家屋が連担している箇所があり、都市計画道路との整合に考慮し、護岸法勾配は現在の護岸と概ね同様としますが、府中大川合流点付近は府中町役場近くの文化的な環境との調和を図るため左岸護岸法勾配を緩傾斜とします。

また、治水上支障のない範囲で沿川の松並木、桜等については残すよう検討します。

流量配分図、平面図及び横断面図を図-3.1.3(4)～(6)に示します。

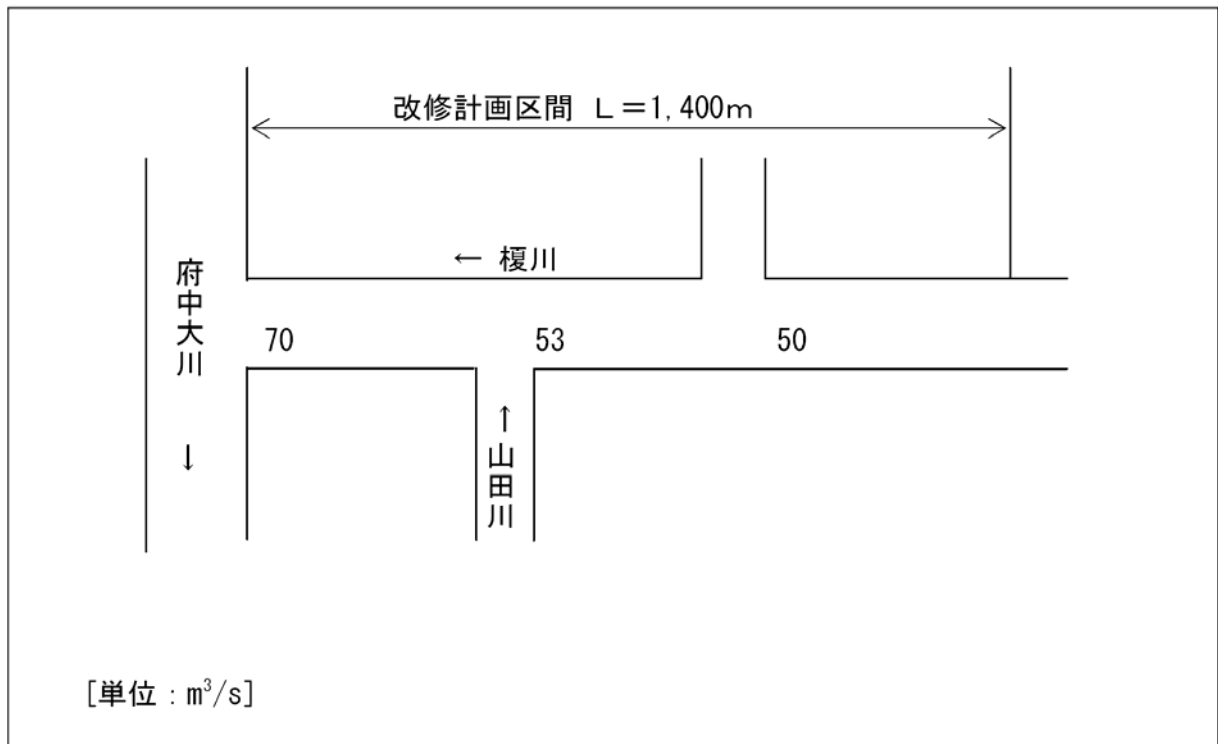


図-3.1.3(4) 流量配分図(榎川)

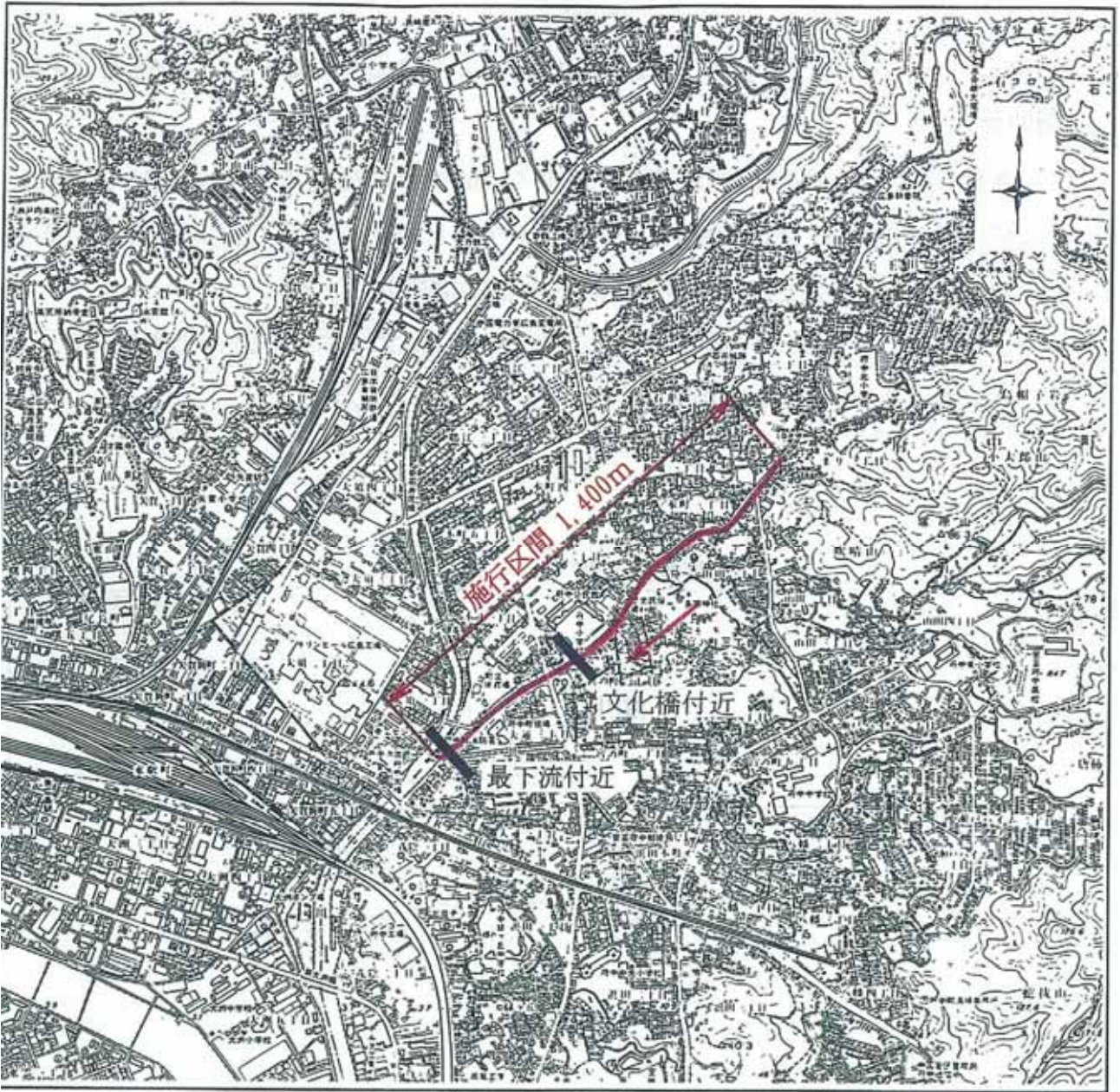
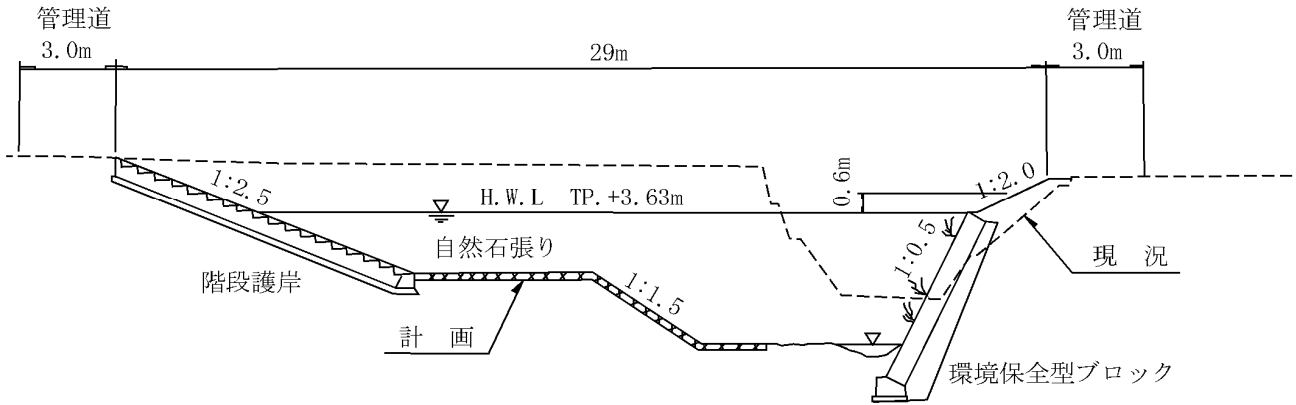
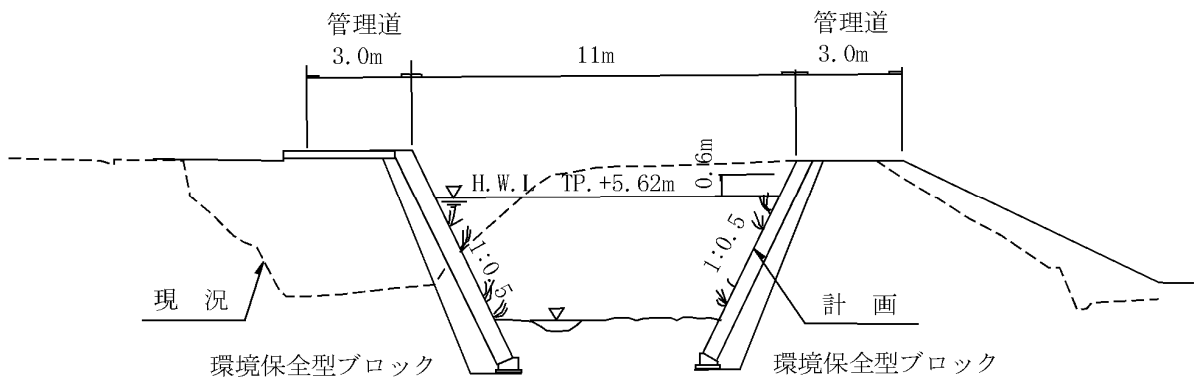


图-3.1.3(5) 平面图(榎川) (S=1:20,000)

最下流付近



文化橋付近



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。
みおすじ
 零筋の水位は平水流量相当時の水位です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合があります。

図-3.1.3(6) 横断面図(榎川)

安川

安川下流地点において目標の計画高水流量 $450\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させる河道断面を確保します。

基本高水流量 $490\text{m}^3/\text{s}$ のうち計画高水流量 $450\text{m}^3/\text{s}$ を河道に流下させ、残り $40\text{m}^3/\text{s}$ は遊水地で貯留します。遊水地の詳細な形状については、平常時における利用形態を勘案のうえ、さらに検討します。

改修計画区間内の瀬と淵を極力保全することにより魚類を含めた水生生物に配慮した改修計画とします。

また、蛇行した流れの復元に配慮し、河幅をできるだけ広くします。

流量配分図、平面図及び横断面図を図-3.1.4(1)～(3)に示します。

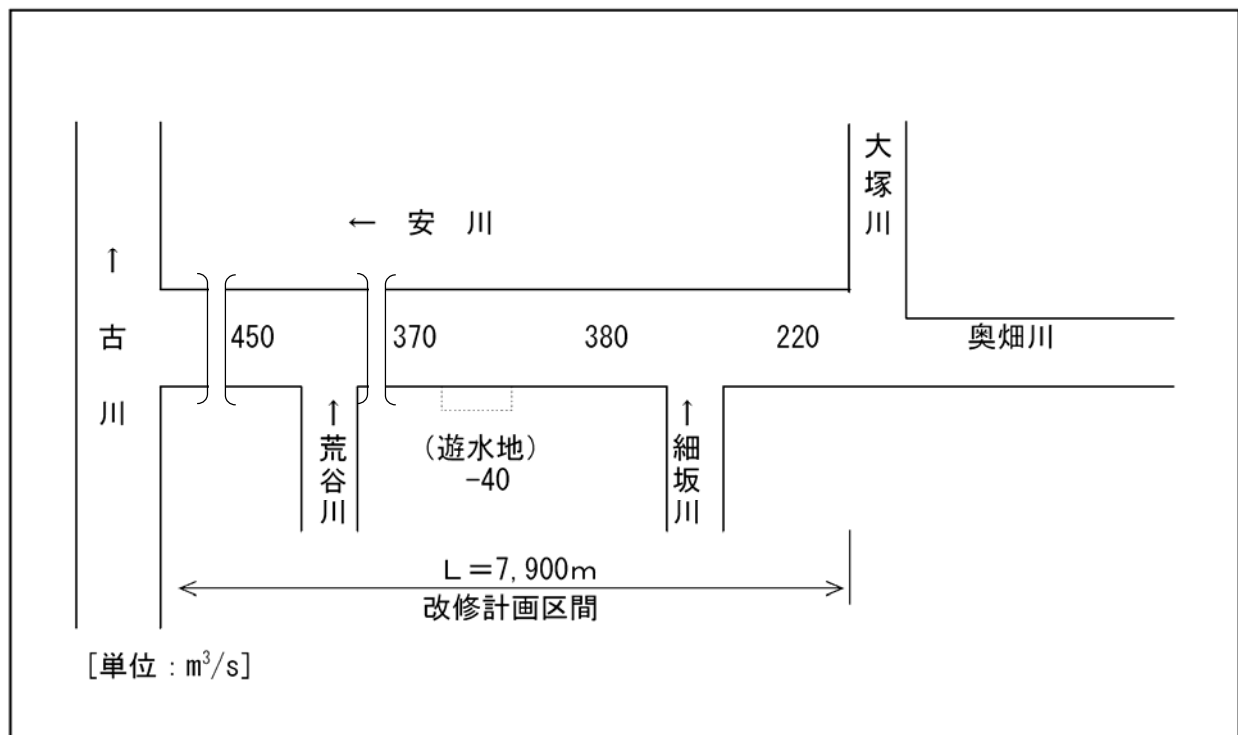


図-3.1.4(1) 流量配分図(安川)

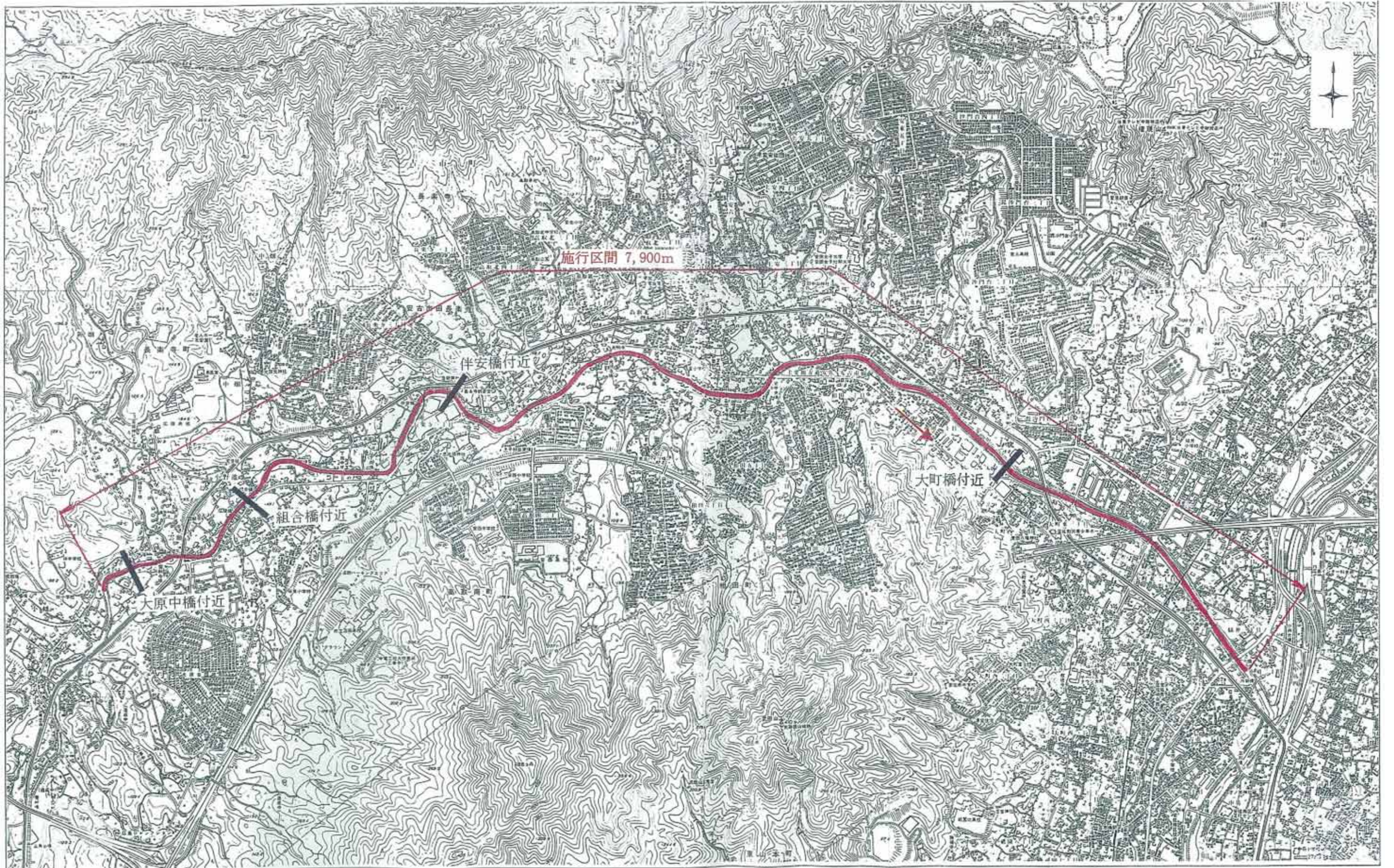
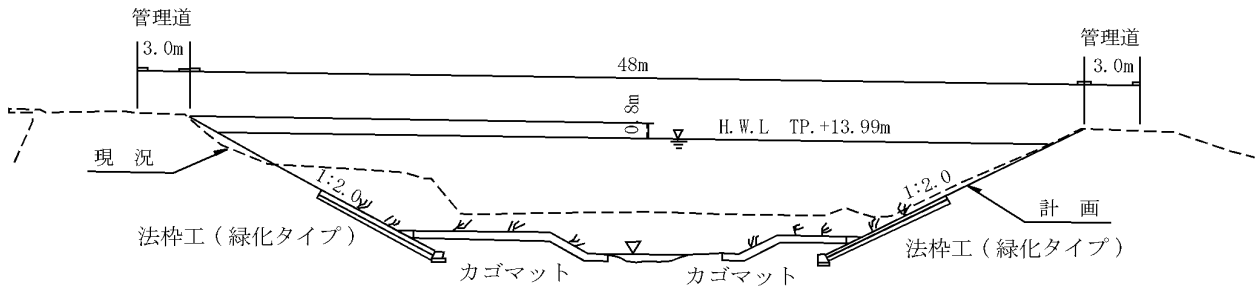
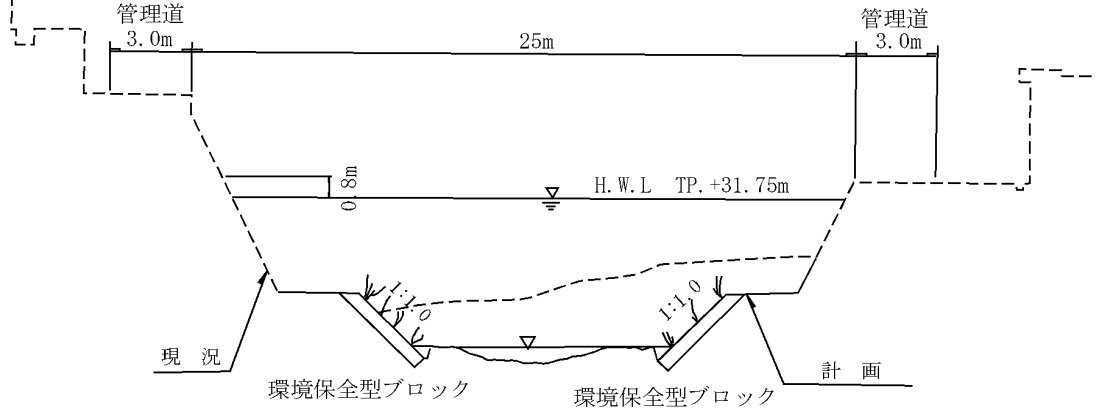


図-3.1.4(2) 平面図(安川)(S=1:20,000)

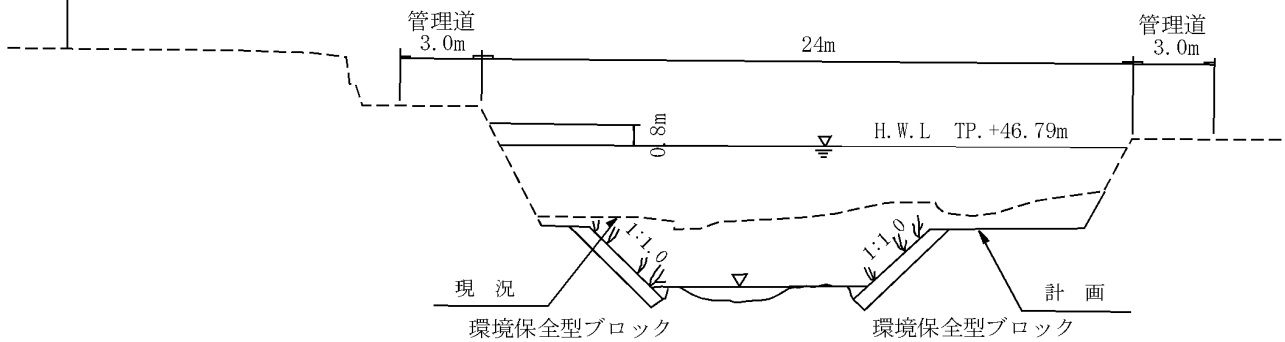
大町橋付近



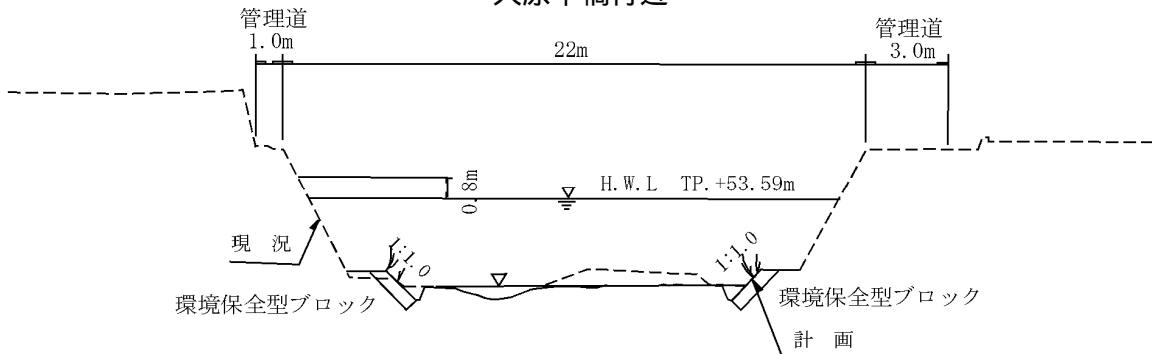
伴安橋付近



組合橋付近



大原中橋付近



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。
みおろし
 浸筋の水位は平水流量相当時の水位です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合もあります。

図-3.1.4(3) 横断面図 (安川)

御幸川

御幸川下流地点において目標の計画高水流量 $40\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させる河道断面を確保します。

広電鉄道橋の高さの制限があるため、河幅を拡幅し河床の低下を図るとともに、流路を是正し河積の拡大を図るよう治水対策を実施します。

周辺で地下水利用があり、家庭排水の浸透を防ぐため地元要望に基づき三面張で施工します。

護岸には魚類や植物に配慮したブロックを採用します。また、床止工は魚類の遡上・降下に配慮した緩傾斜タイプとします。

下流には、防潮水門を設置し排水ポンプの規模については今後検討していきます。

流量配分図、平面図及び横断面図を図-3.1.5(1)～(3)に示します。

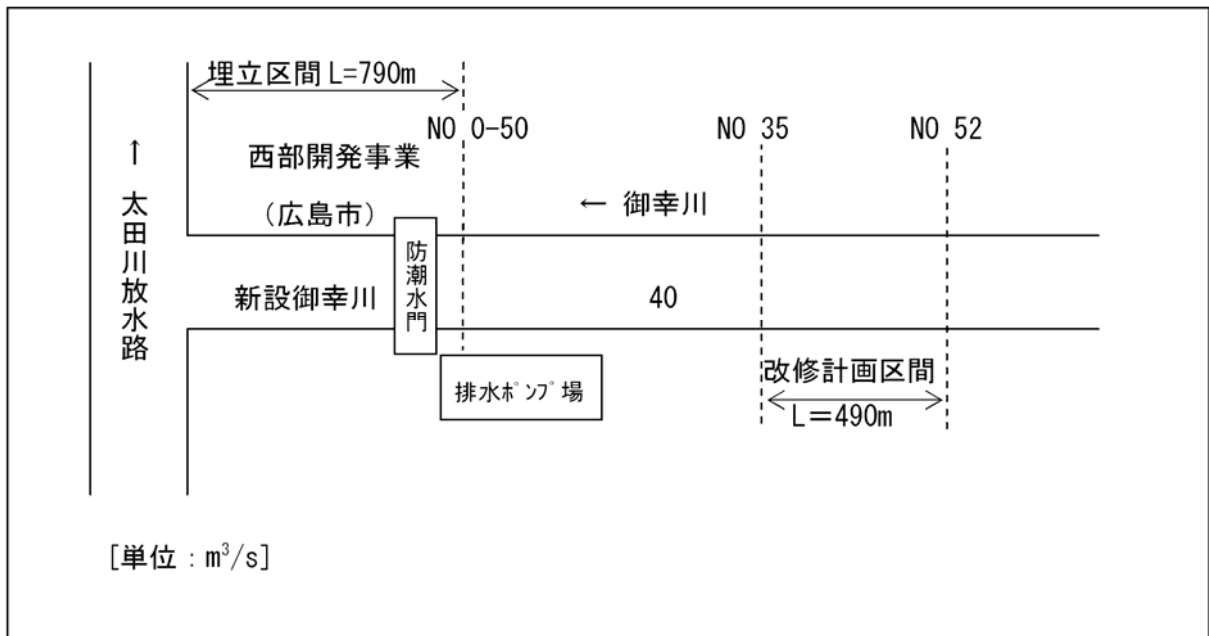


図-3.1.5(1) 流量配分図（御幸川）

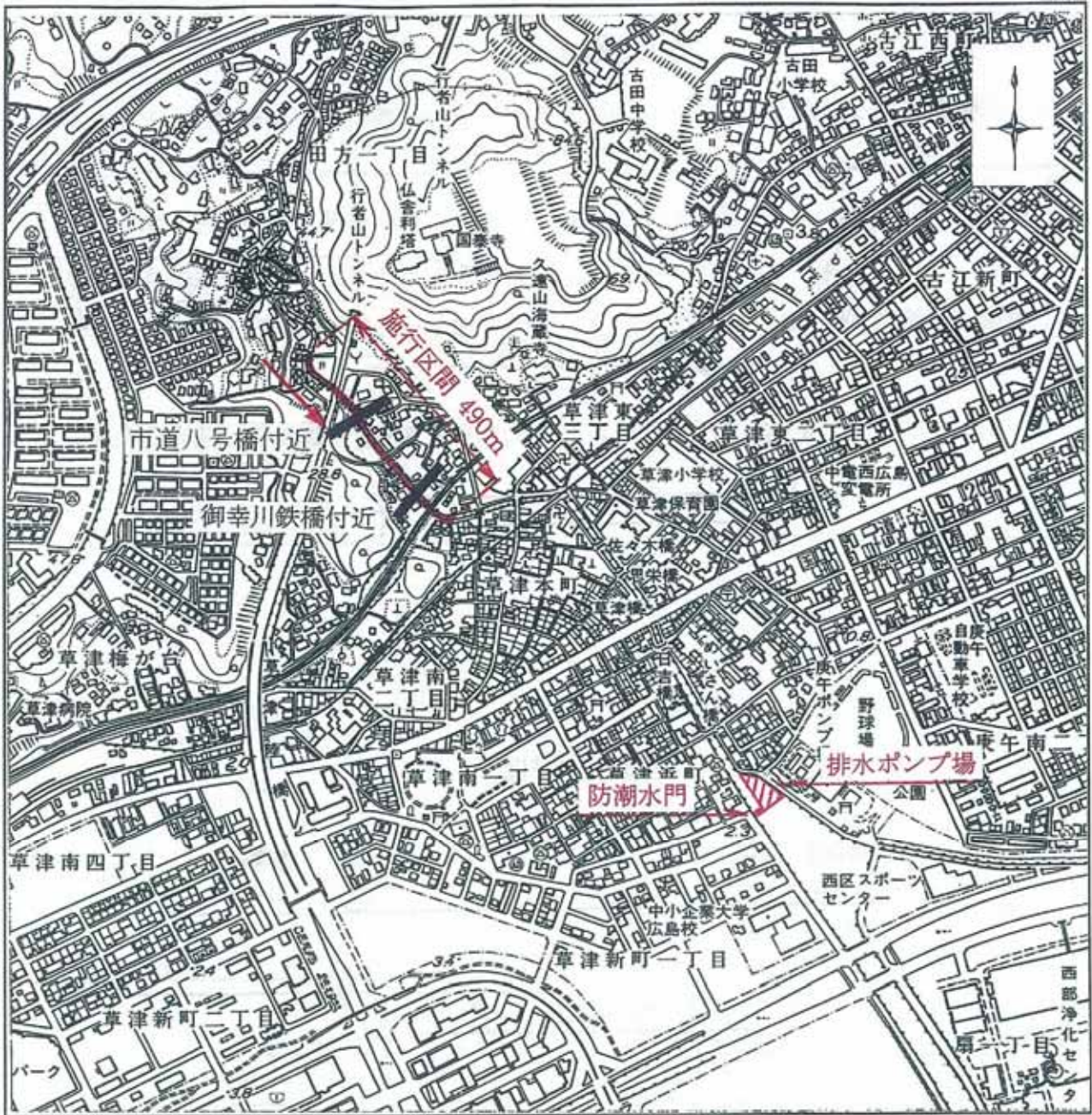
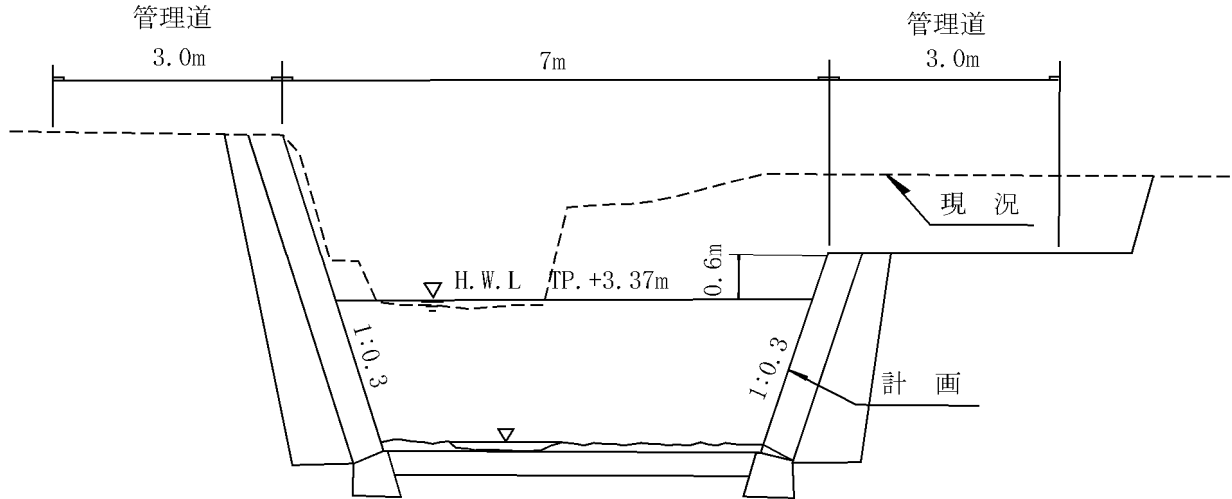
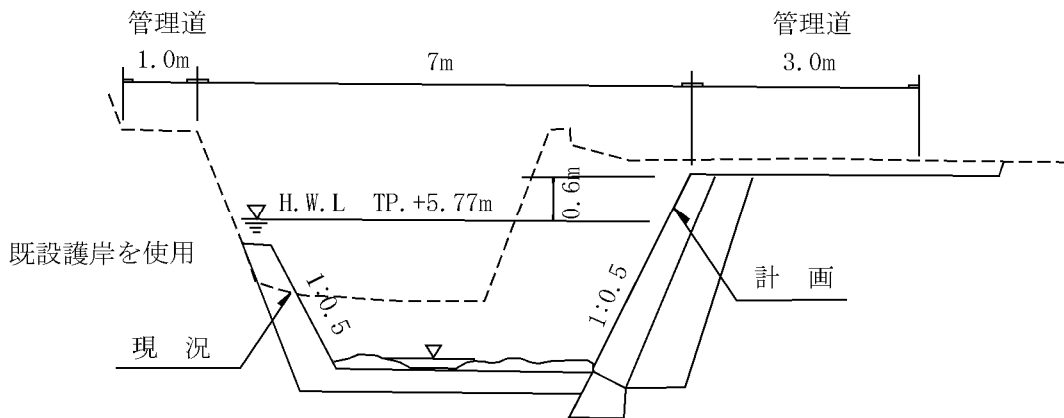


図-3.1.5(2) 平面図(御幸川)(S=1:10,000)

御幸川鉄橋付近



市道八号橋付近



なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合があります。

断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。

みおすじ
 濁筋の水位は平水流量相当時の水位です。

図-3.1.5(3) 横断面図 (御幸川)

根谷川・山倉川

a. 根谷川

南原川合流点において目標の計画高水流量 $400\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させる河道断面を確保します。

改修計画区間は河川断面が狭小なため、豪雨のたびに溢水し災害が発生しています。このため河積の拡大を図り治水安全度の向上を行い災害を防止します。

河床掘削時には蛇行を残すよう配慮するとともに、法面には在来種の植物を播種します。流量配分図、平面図及び横断面図を図-3.1.6(1)～(3)に示します。

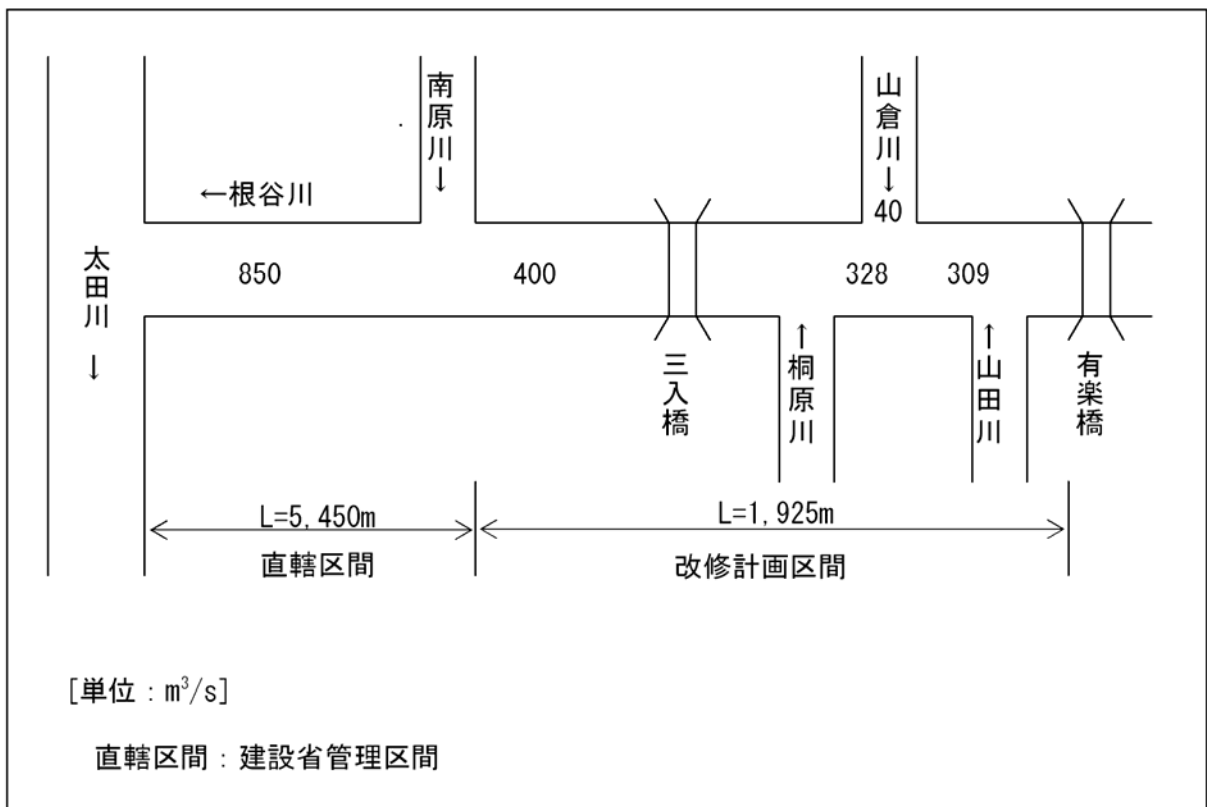


図-3.1.6(1) 流量配分図(根谷川)

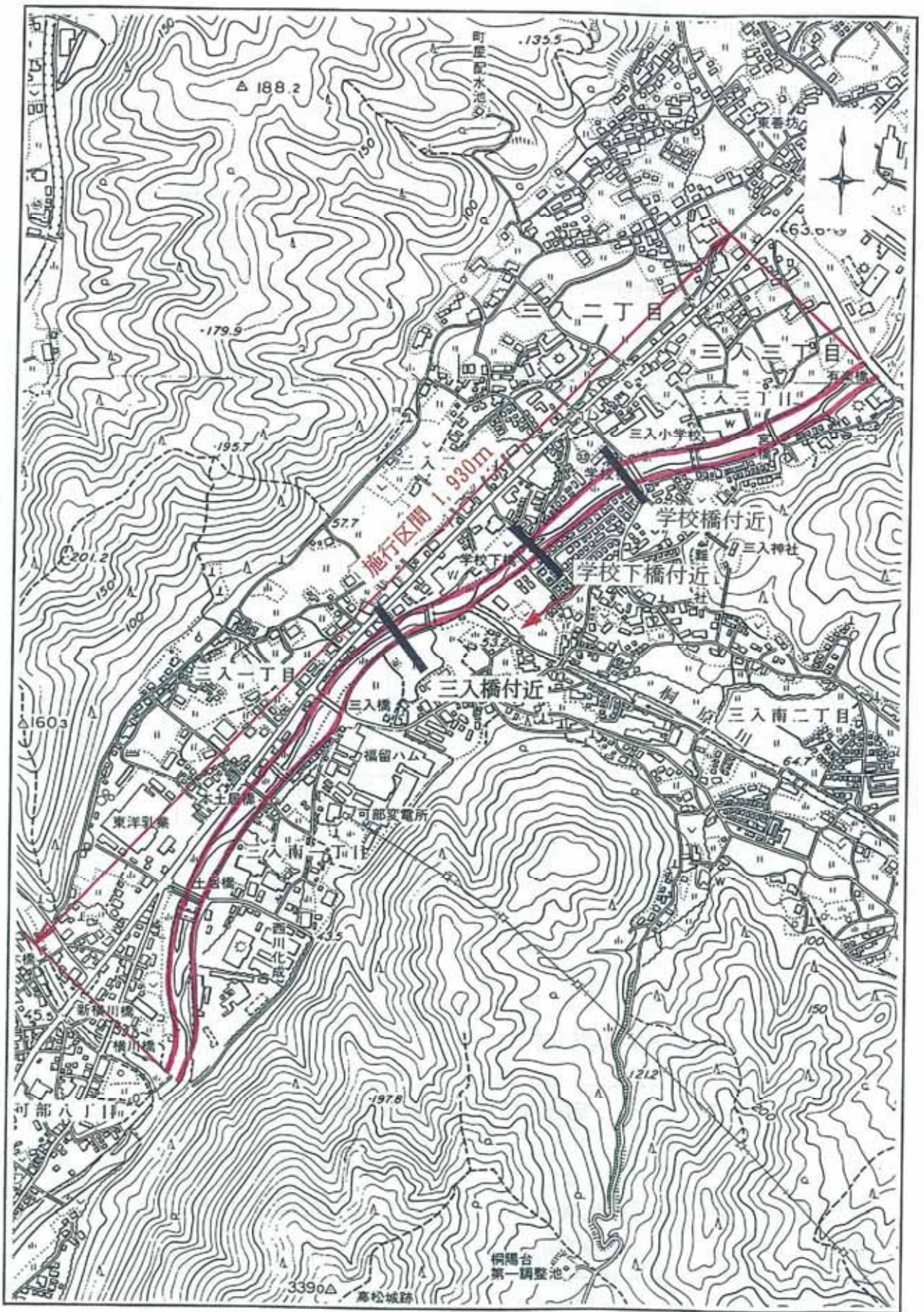
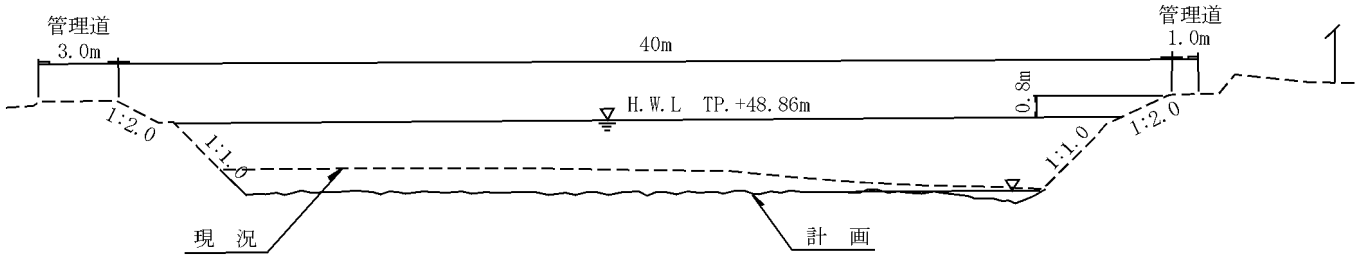
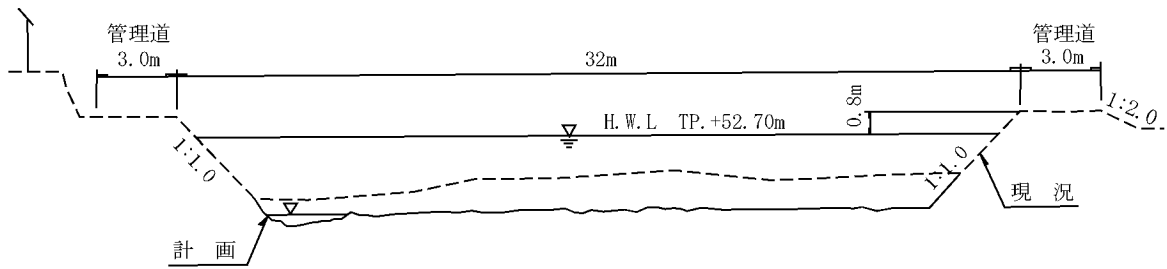


図-3.1.6(2) 平面図(根谷川)(S=1:10,000)

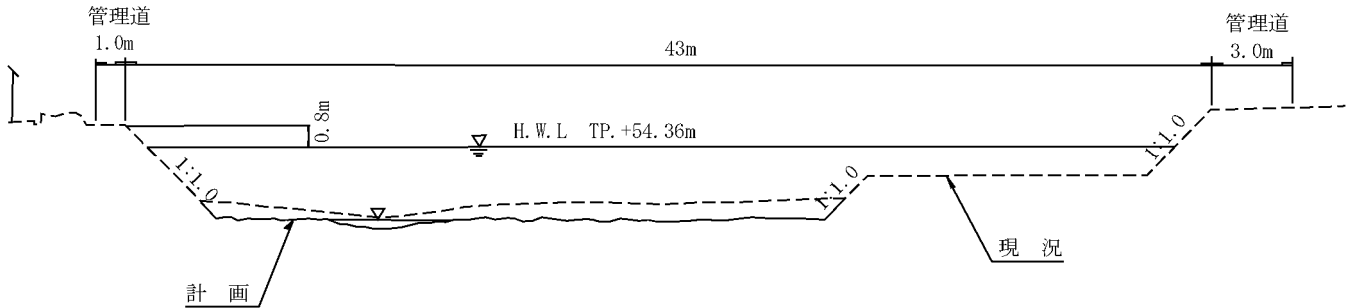
三入橋付近



学校下橋付近



学校橋付近



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。
みおすじ
 湊筋の水位は平水流量相当時の水位です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合があります。

図-3.1.6(3) 横断面図(根谷川)

b . 山倉川

山倉川下流地点において目標の計画高水流量 $40\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させる河道断面を確保します。

流域内は、近年都市化が進みさらに可部バイパス等の道路が計画されていることから、今後ますます都市化の進展が予想されるため、都市河川としての特性に配慮しつつ、河積の拡大及び流路の是正を行います。

国道 54 号線から上流の河川改修については、動植物の生息・生育環境に配慮したブロックを採用します。また、床止工は魚類に配慮した緩傾斜タイプとします。

流量配分図、平面図及び横断面図を図-3.1.6(4)～(6)に示します

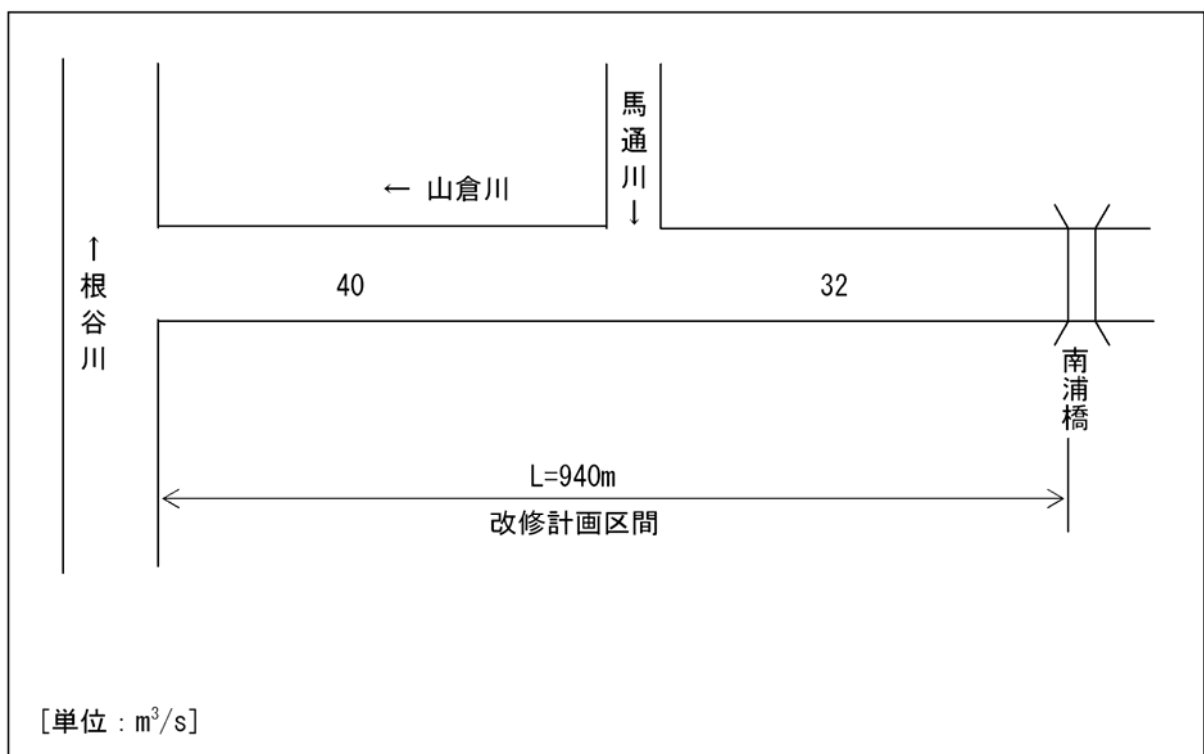


図-3.1.6(4) 流量配分図(山倉川)

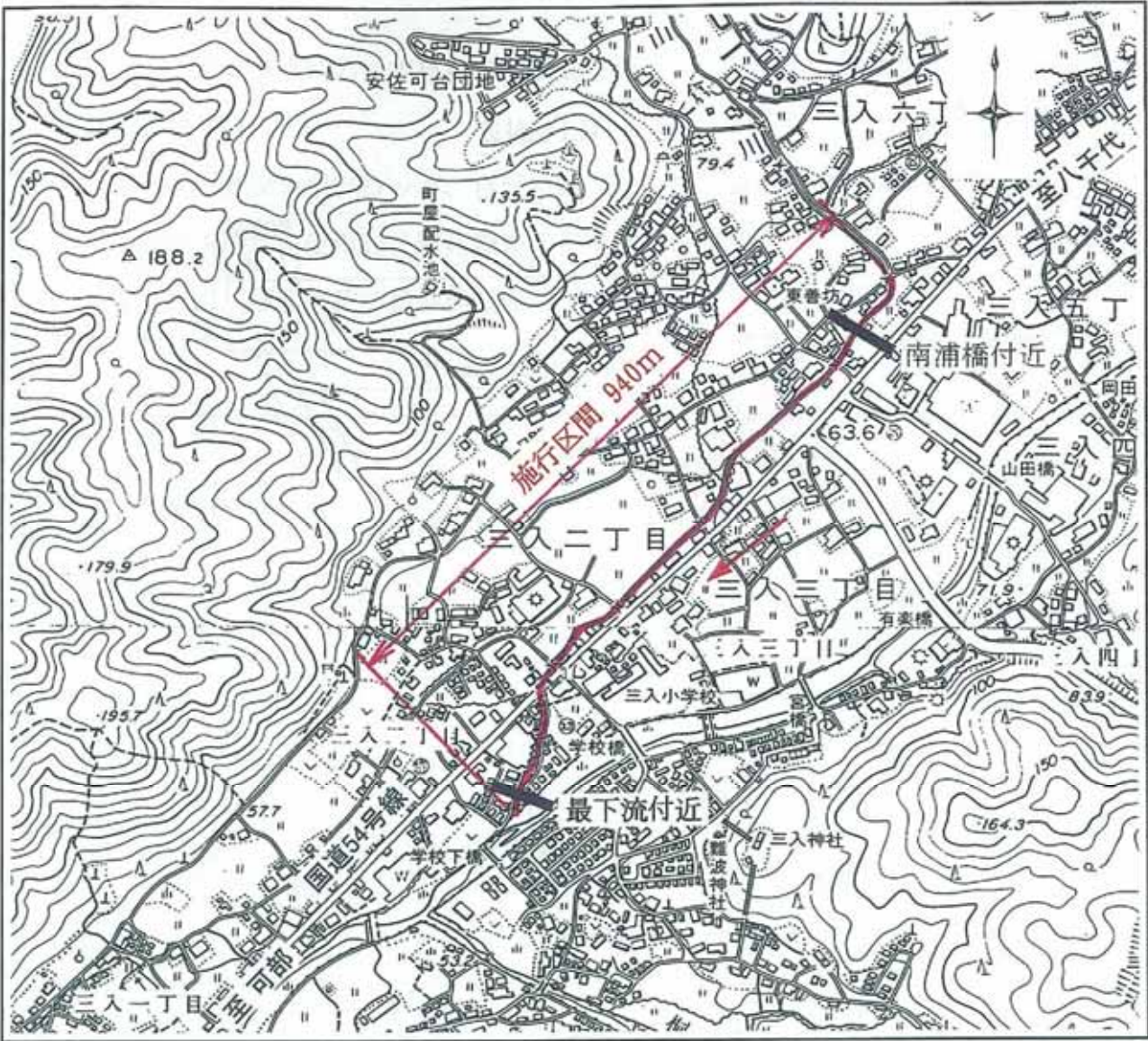
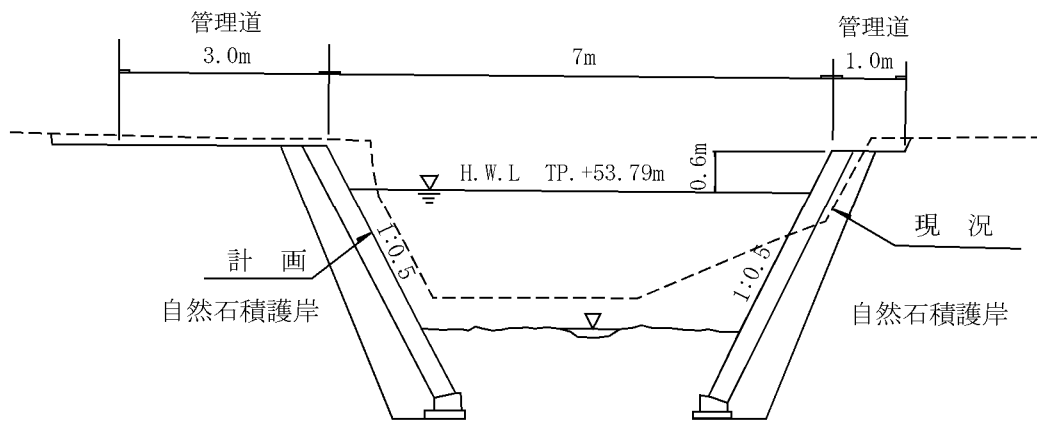
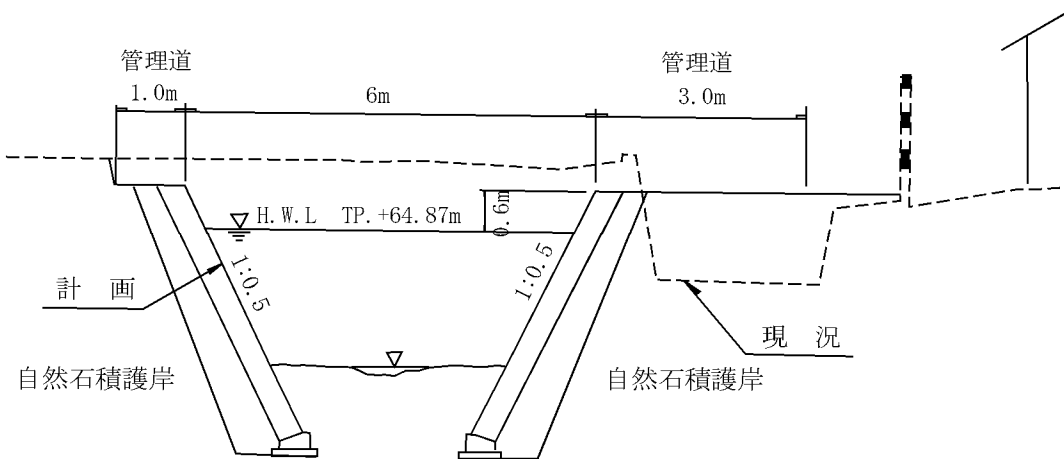


図-3.1.6(5) 平面図(山倉川)(S=1:10,000)

最下流付近



南浦橋付近



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。
みおすじ
 濁筋の水位は平水流量相当時の水位です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合があります。

図-3.1.6(6) 横断面図(山倉川)

大毛寺川

大毛寺川下流地点において目標の計画高水流量 $190\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させる河道断面を確保します。

護岸には環境保全型ブロック、自然石積（発生材を流用し現地の環境に配慮しつつ可能な範囲で実施）を使用し、河川環境の保全に努めます。

流量配分図、平面図及び横断面図を図-3.1.7(1)～(3)に示します。

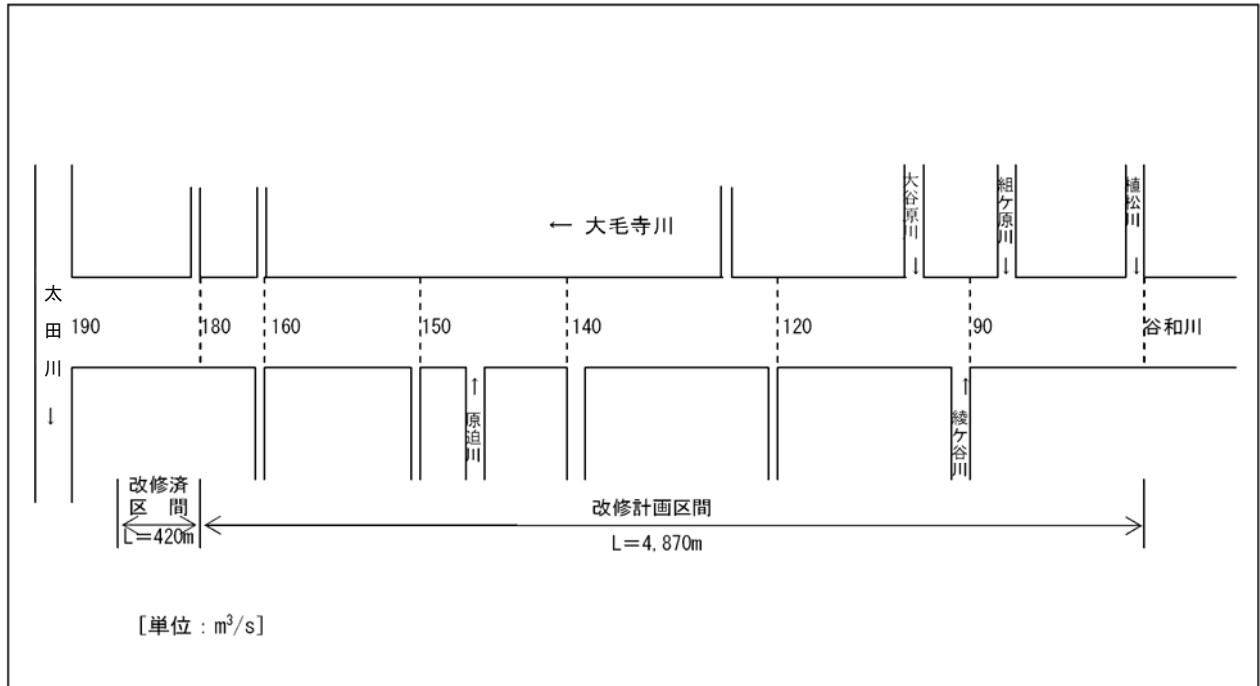


図-3.1.7(1) 流量配分図（大毛寺川）

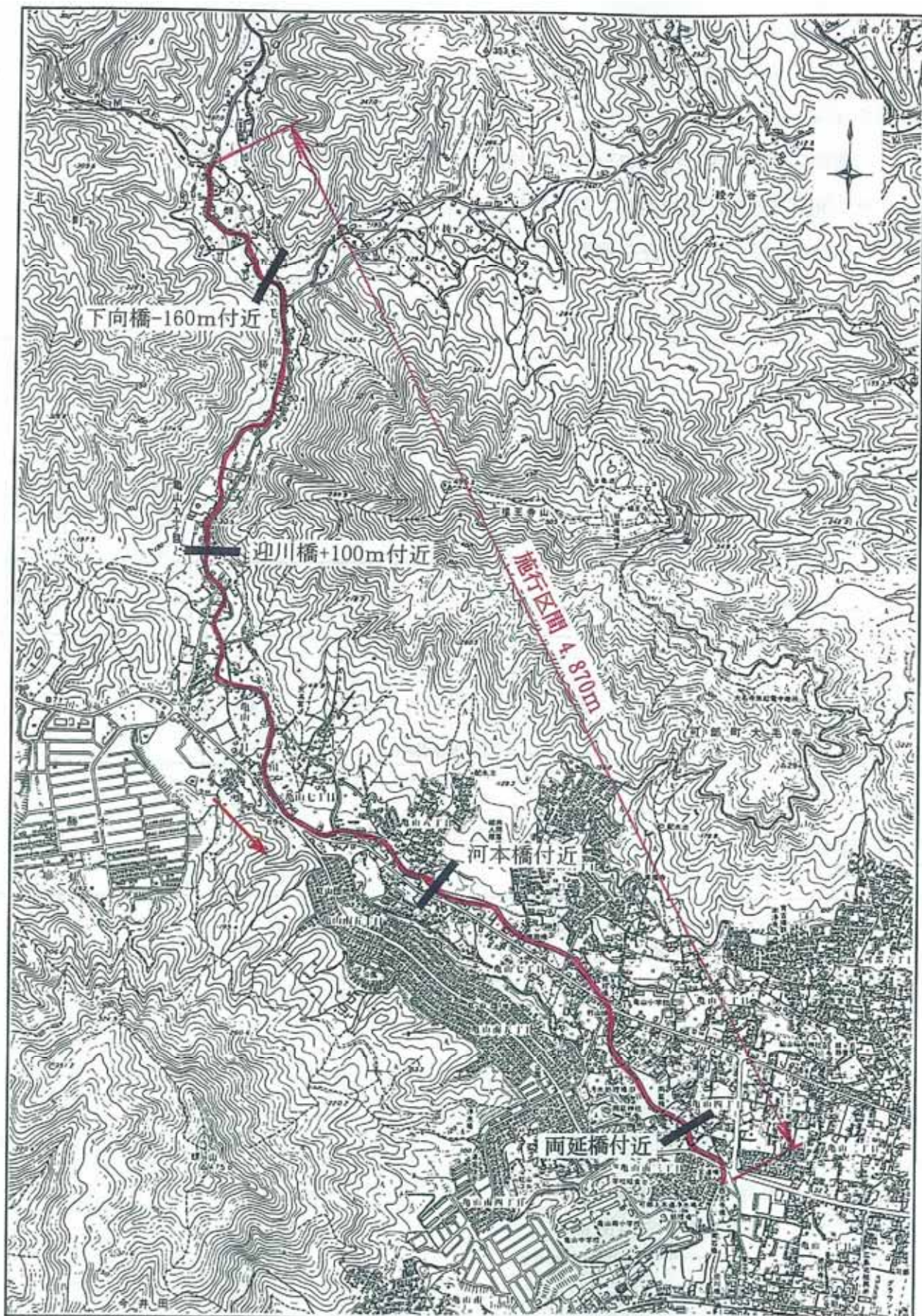
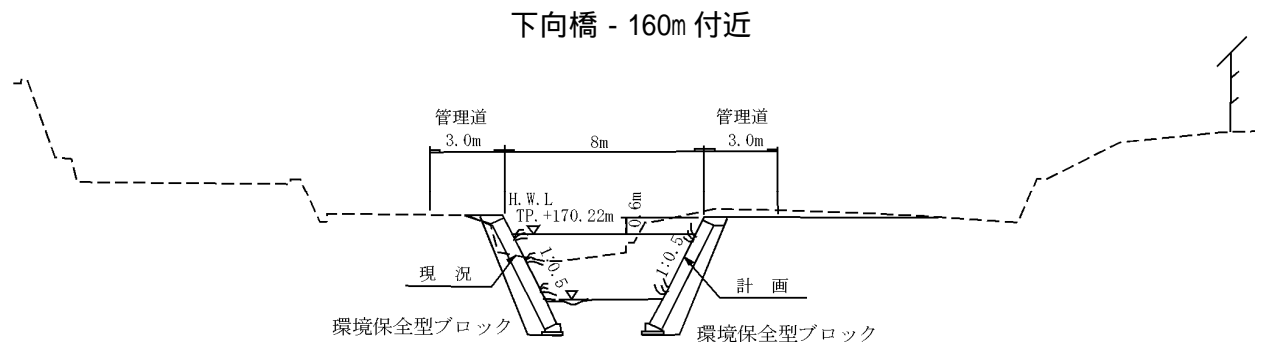
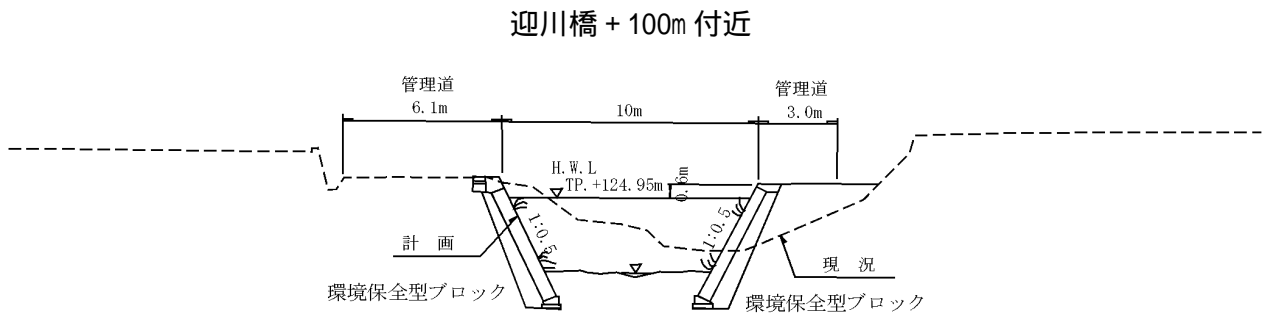
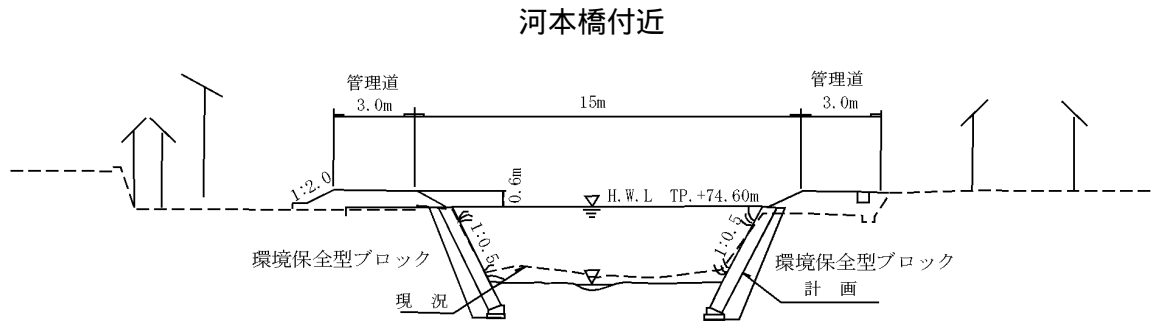
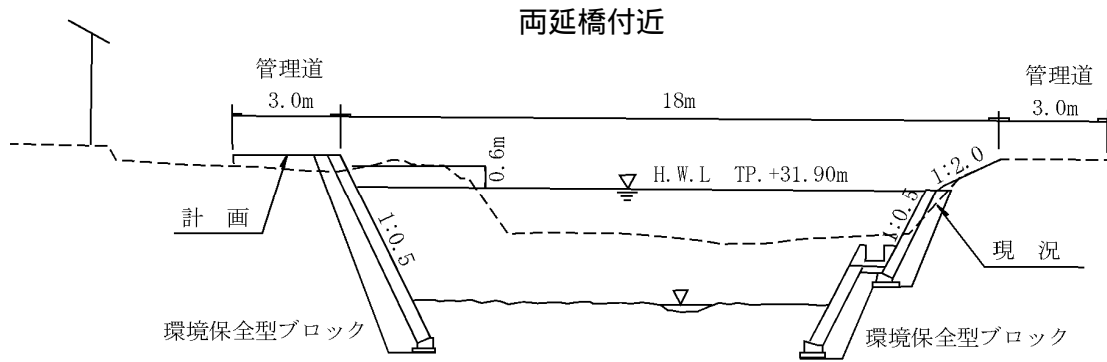


图-3.1.7(2) 平面图(大毛寺川) (S=1 : 10,000)



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。
みおすじ
 澗筋の水位は平水流量相当時の水位です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合があります。

図-3.1.7(3) 横断面図 (大毛寺川)

鈴張川

鈴張川下流地点において目標の計画高水流量 $350\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させる河道断面を確保します。

近年では流域内で住宅団地、工業団地の開発が進んでおり、改修計画区間は断面が狭小で蛇行しているため、豪雨のたびに溢水し災害が発生しています。このため河積の拡大により治水安全度の向上を図ります。

護岸には環境保全型ブロックを使用して多自然護岸とし、河川環境の保全に努めます。

流量配分図、平面図及び横断面図を図-3.1.8(1)～(3)に示します。

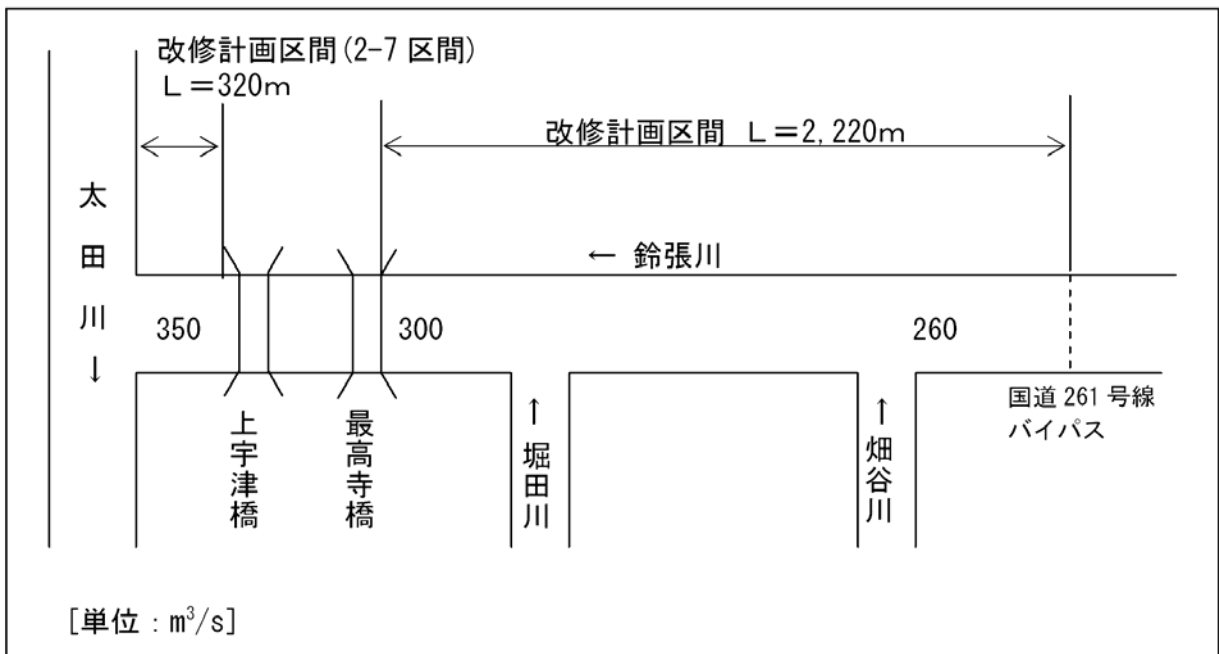


図-3.1.8(1) 流量配分図(鈴張川)

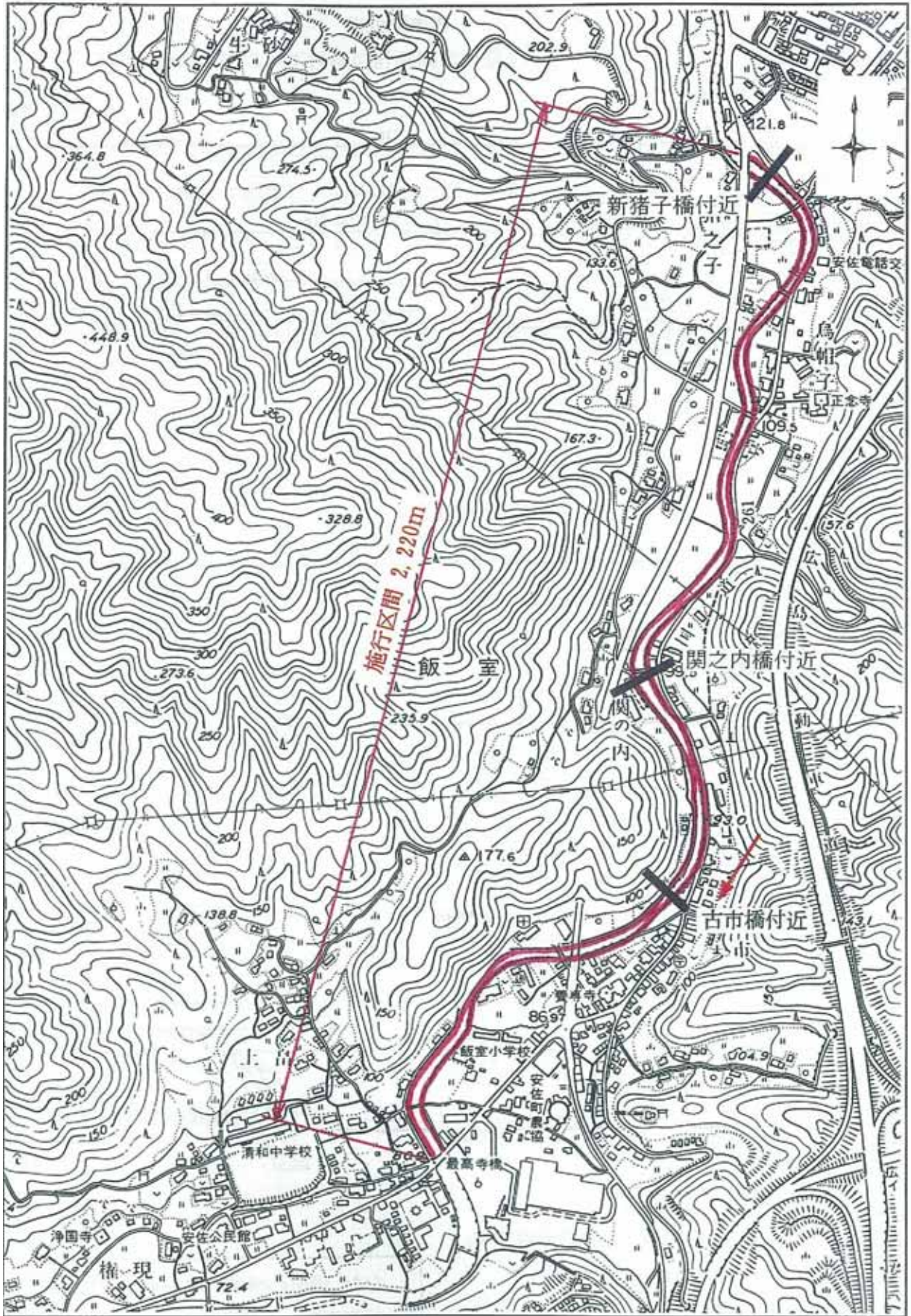
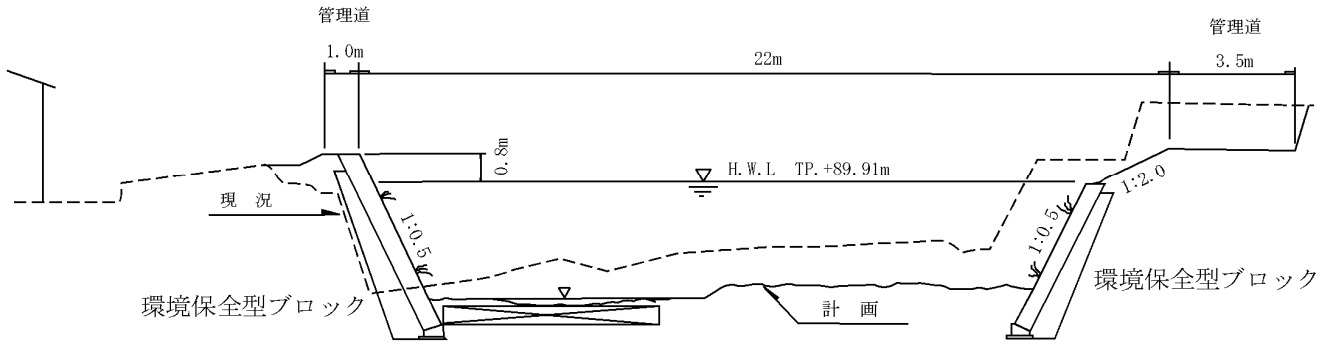
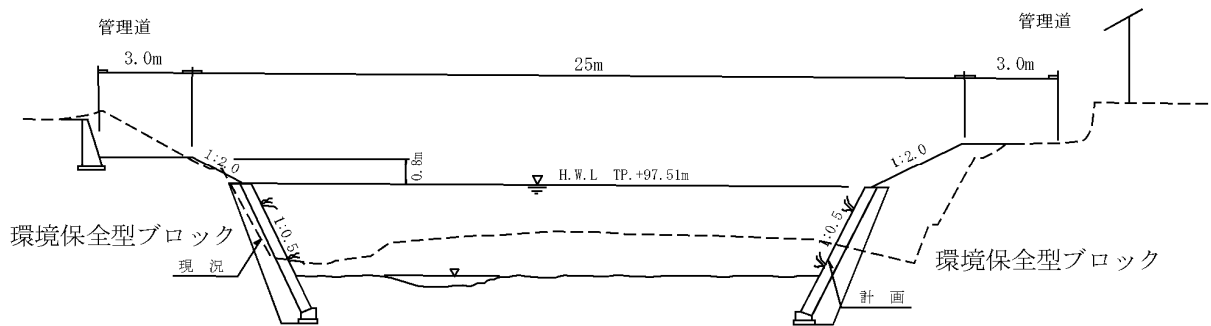


図-3.1.8(2) 平面図(鈴張川)(S=1:10,000)

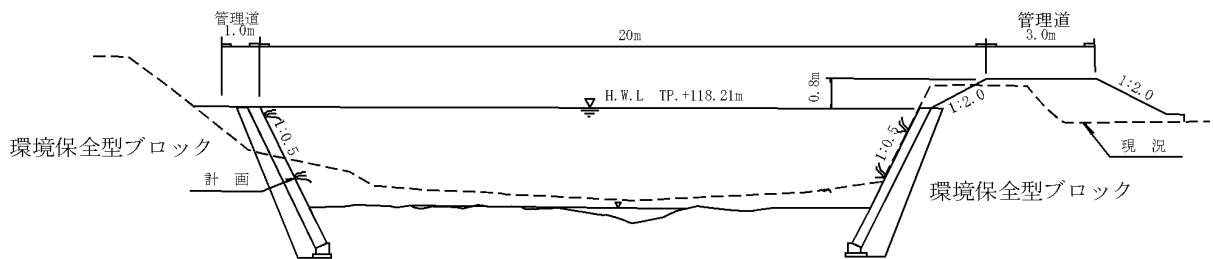
古市橋付近



関之内橋付近



新猪子橋付近



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。
 濁筋の水位は平水流量相当時の水位です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合もあります。

図-3.1.8(3) 横断面図(鈴張川)

吉山川

吉山川下流地点において目標の計画高水流量 $370\text{m}^3/\text{s}$ を安全に流下させる河道断面を確保します。

護岸には環境保全型ブロック、自然石積（発生材を流用し現地の環境に配慮しつつ可能な範囲で実施）を使用し、河川環境の保全に努めます。

階段式護岸を設けることにより、人が水辺に近づき易いように工夫するなど、潤いとふれあいのある水辺空間の形成を進め新たな川づくりを図ります。

流量配分図、平面図及び横断面図を図-3.1.9(1)～(3)に示します。

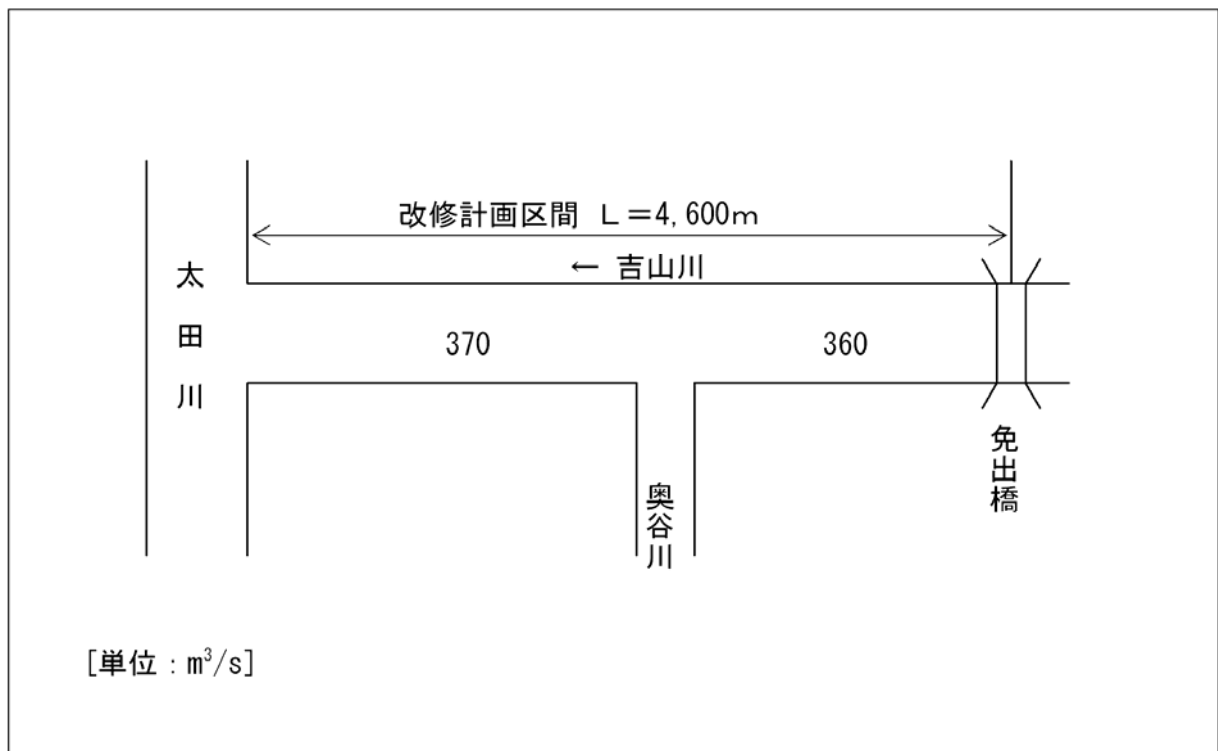


図-3.1.9(1) 流量配分図（吉山川）

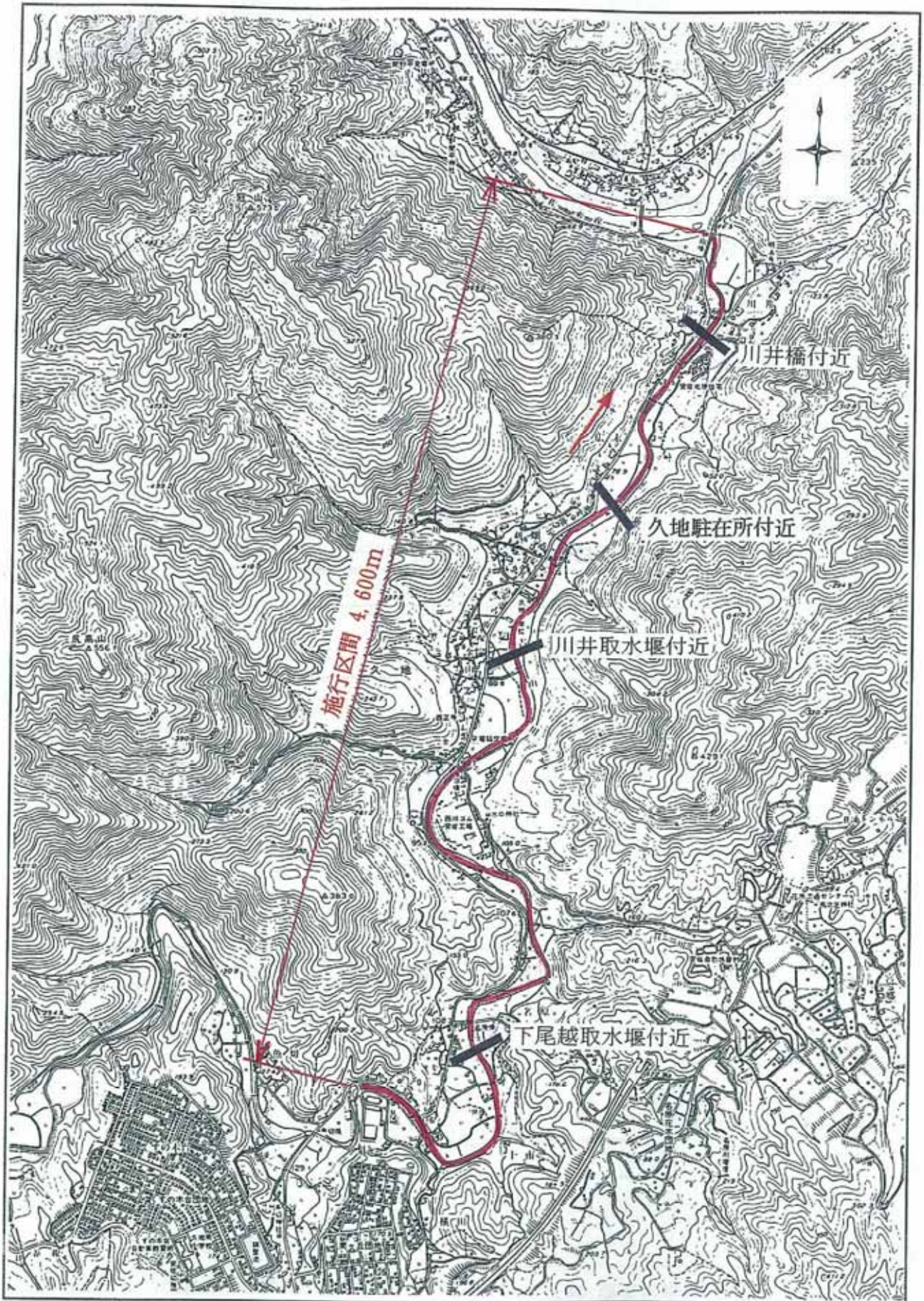
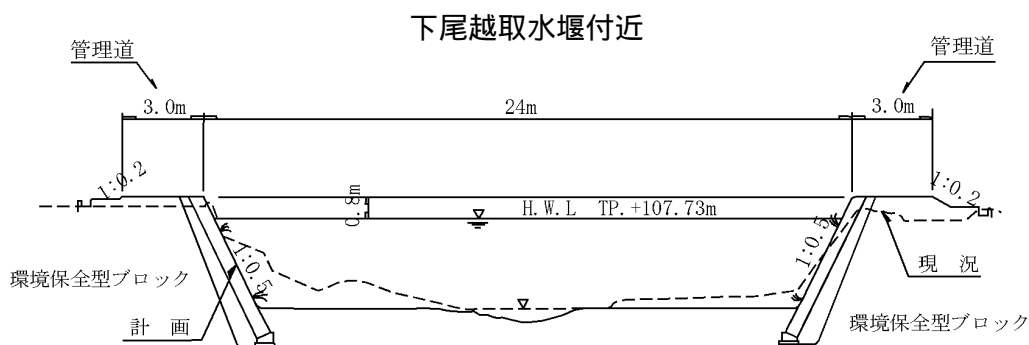
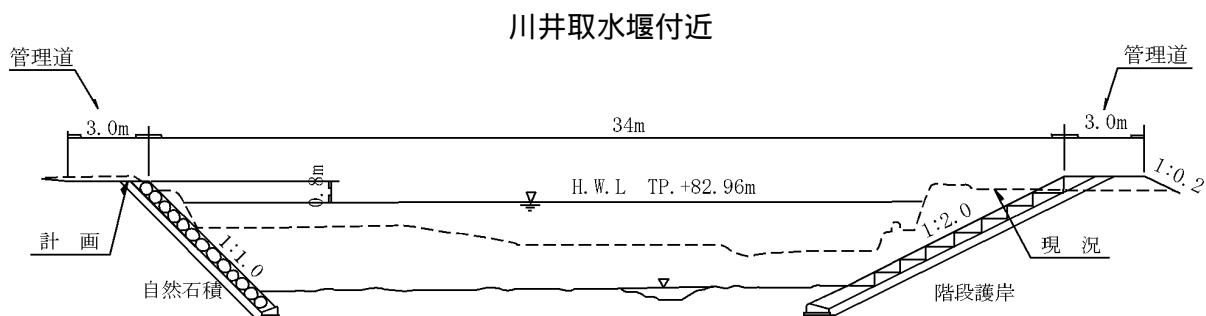
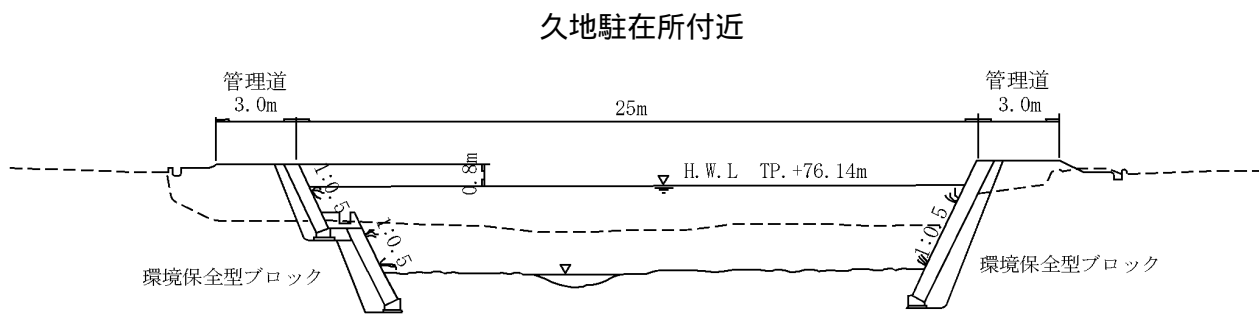
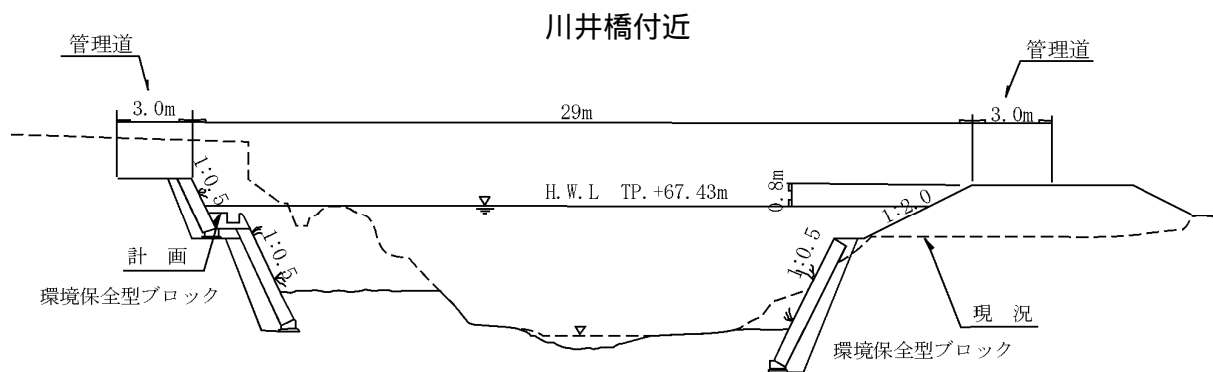


图-3.1.9(2) 平面图(吉山川)(S=1:20,000)



断面図は、上流から下流を眺めたときの形状です。
みおすじ
 澗筋の水位は平水流量相当時の水位です。

なお、護岸の構造は現場の状況により変更になる場合があります。

図-3.1.9(3) 横断面図 (吉山川)

(3) 内水対策

新安川

近年被害が発生した平成 17 年 9 月洪水や平成 22 年 7 月洪水に対して、内水はん濫被害の再発を防止又は軽減するため、床上浸水被害の防御を目的とした河口のポンプ増設などを行います。また、床下浸水を含めた家屋浸水被害を防ぐため、広島市と連携して内水対策に努めます。

平面図を図-3.1.10(1)に示します。

表-3.1.10(1) 新安川排水機場の諸元

項目	諸元
目的	内水はん濫の軽減
集水面積	7.2km ²
ポンプ計画排水量	11.5m ³ /s (現況 5.0m ³ /s、増設 6.5m ³ /s)

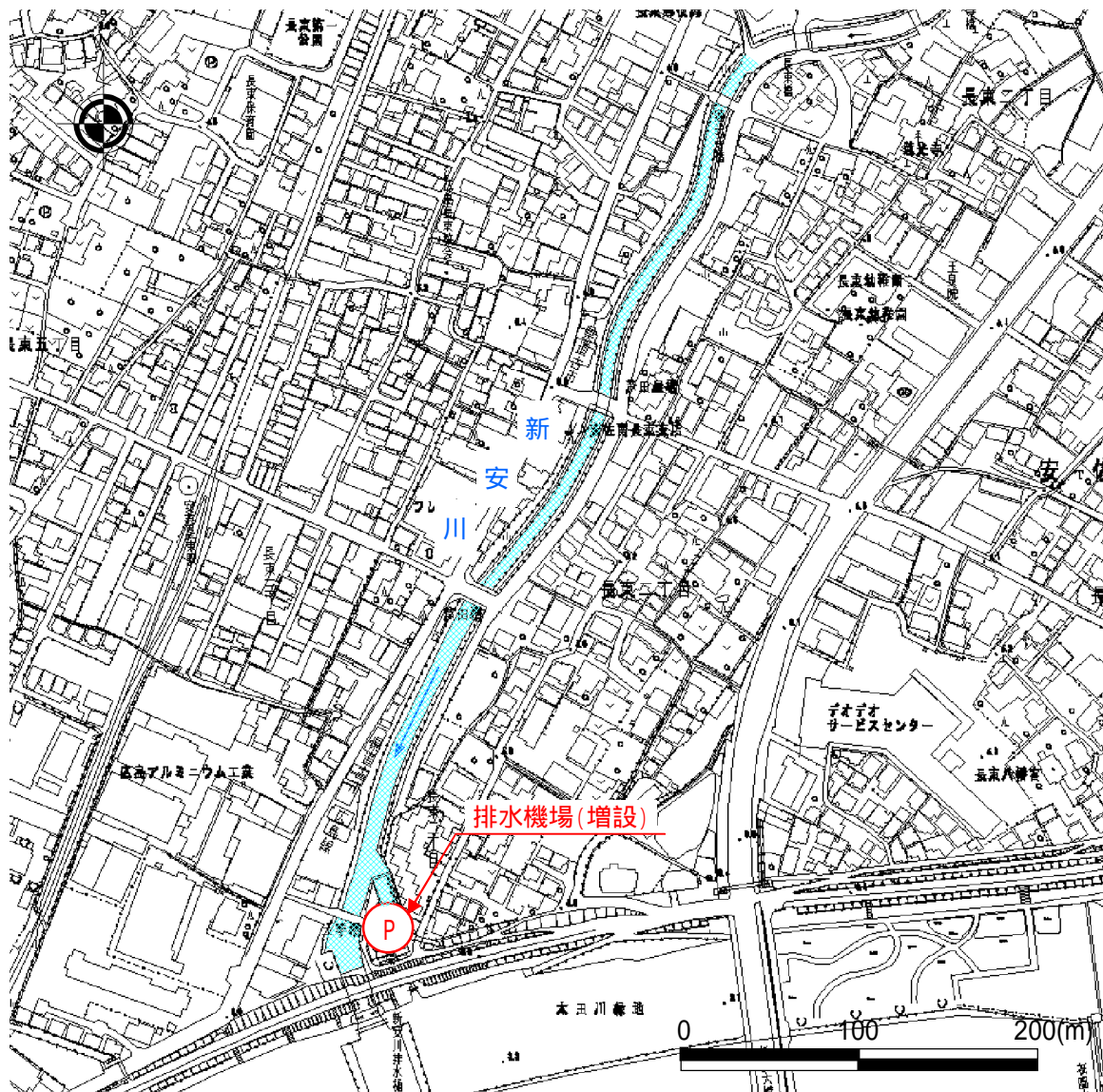


図-3.1.10(1) 平面図(新安川) (S=1 : 4,000)

矢口川

矢口川では、内水はん濫による浸水被害の軽減を図るため、「矢口川総合内水対策協議会」により、国土交通省、広島市及び広島県が連携して具体的な対策内容（矢口川総合内水対策計画）を検討しています。広島県では、この計画に基づき、適切な役割分担のもと、必要な内水はん濫対策の実施に取り組めます。

3.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

3.2.1 河川維持の目的

河川の維持管理は地域の特性を踏まえつつ、洪水による被害の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全がなされるよう総合的に行います。

また、広島県では、国の「河川維持管理指針」及び「広島県公共土木施設維持管理基本計画」に基づき、「河川維持管理計画」を平成21年4月に策定しています。この計画により、「河川堤防・護岸」「排水機場」「河川トンネル」「調整池」について、効率的かつ効果的な維持管理（アセットマネジメント）を行います。

3.2.2 河川維持の種類及び施行の場所

広島県知事管理区間においては、以下の河川維持を行います。

河床の維持

長期的間にまたは出水により土砂が堆積し、洪水の流下の阻害となるなど治水上支障となる場合は、環境面も配慮しつつ掘削等必要な対策を行います。また、出水などによる河床の低下は、護岸等構造物の基礎が露出すると危険なため早期発見に努めるとともに、河川管理上の支障となる場合は適切な処理を行います。

伐採、除草による維持

良好な河川環境の保持を図る必要のある箇所は草刈りは市町と協力して行います。

護岸、堤防の維持

護岸、堤防については法崩れ、亀裂、陥没等の異常について早期発見に努めるとともに、河川管理上の支障となる場合は適切な処理を行います。

また、二又川について維持管理のため管理道の整備を行うとともに、矢口川・諸木川・小河内川について住宅地近傍の河道狭隘部のはん濫防止のため、パラペットや護岸等を整備します。

新安川については、河川の維持管理に必要となる進入路を適所に設置する。

特殊堤の維持

堤防が胸壁式構造となっている区間には、堤防沈下やひび割れ発生の有無等について早期発見に努めるとともに、河川管理上の支障となる場合は適切な処理を行います。

排水機場、河川トンネル、地下調節池等の施設の機能維持

排水機場、河川トンネル及び地下調節池等の施設については、施設の機能に支障を来す変状の度合いを定量的に定めることが困難です。このため、河川巡視・点検を基本とした継続的な状況把握により、変状の度合いを時系列で捉え、その時間的变化から施設の機能に重大な支障が生じると予測される場合には、事前に必要な対策（維持，修繕，更新）を実施し、施設の機能を維持します。

不法係留対策

船舶の不法係留は、治水等河川管理上の支障はもとより、水の都ひろしまの水辺景観を損うとともに、騒音や違法駐車等生活環境にも悪影響を与えています。このため、段階的に不法係留船舶の排除を行うこととし、規制区域を設け、届出制の実施、係留保管施設への誘導を行っています。

今後も規制区域を段階的に拡大し、規制区域の放置船舶に対しては、パトロールやチラシ等の配布により適正保管の指導を行います。

河川利用の安全対策

新安川については、水難事故防止に向け、河道内の危険箇所を示す看板を設置し、河川利用者の安全意識の向上を図ります。